

平成18年度第3回協働支援会議（公開プレゼン） 平成18年6月21日午後1時00分  
区役所本庁舎本庁舎5階大会議室

出席者 新宿区長、地域文化部長

久塚委員、鈴木委員、伊藤（清）委員、小原委員、伊藤（圭）委員

事務局 河原地域調整課長、寺尾コミュニティ係主査、梅本主任、鈴木（浩）主任

事務局 では、よろしくお願いいたします。

中山区長 皆さん、こんにちは。区長の中山弘子でございます。本日は、皆さん、このようにお集まりいただき、本当にありがとうございます。平成18年度新宿区協働推進基金NPO活動資金助成の公開プレゼンテーションによる審査を始めるに際しまして、私からも一言ごあいさつさせていただきます。

こととして、この新宿区協働推進基金によるNPO活動資金助成事業も3年目を迎えました。3年目になると、先ほども久塚先生とお話をしたのですが、「いやあ、やっぱり提案内容も充実してきているな」と。私は、とてもうれしく思っております。これは、多くの皆様の温かいご寄附があって成り立っているということでございます、また、昨年まで助成した内容を見ますと、さまざまな分野で、その団体の特色が存分に発揮されている事業に助成することができたということで、この制度が確かなものとして機能しているということを実感しております。

そして、今年度、実は新たな取り組みとして、この制度とは別に、協働事業提案制度が導入されます。これは、NPOを初め、地域で活動している団体の方々が地域のさまざまな課題を解決するために、政策提案、事業提案をしていただき、区と協働して事業を実施しようというものです。現在、ちょうどその事業提案の募集を行っているところで、ぜひ皆様の新しい視点で、新宿のまちの暮らしやすさでありますとか、新宿のにぎわいをますます高めることができるような事業のご提案をいただきたいと思います。本日、この制度のご案内のチラシもお手元のほうにお配りしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、今回の申請内容を私も拝見しました。それぞれの団体の専門分野が生かされた、アイデアにあふれた提案がなされているなど感じて本当にうれしく思っています。区民の方々が、こういった皆さんの提案された事業に参加していただくことによって、多くの、この新宿のまちで暮らしていく、それから、皆さんといろんなことができる、そ

った満足を感じていただけるのではないかと考えています。

これから行われるプレゼンテーションは、NPOの皆さんが行う社会貢献活動の内容を直接発表していただくことによりまして、第2次審査の参考にさせていただくということが目的でありますけれども、それとあわせて、本日ここにお集まりいただいた皆さんにとって、他の団体、さまざまな団体がどのような活動をしているのかということを理解するよい機会にもなると思います。そういった意味で、こういった時間を共有できるということは、私は素晴らしいことだと思っております、こういった時間が皆さんにとっていい時間になるように、これからも運営をしていけたらと思っております。

本日のプレゼンテーションによって結果が決まるということで、プレゼンをされる方は緊張されている部分もあるかと思いますが、私も、どんなプレゼンテーションがここでなされるかというのは本当に楽しみです。しかしながら、今日は本当に残念ですけれども、他の仕事とどうしてもバッティングをしてしまったので、私はあいさつをして帰ってしまわなくてはなりません。私はいろんな事業に出てあいさつだけして帰るとするのは1番残念で好きじゃないのですが、今日は申しわけありませんが、そのような状況ですから、後ほど担当者のほうからも、「どうだったの?」ということで話を聞かせていただき、それから、先生方や多くの皆さんからこの結果についてもいろいろ情報を共有できたらと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、簡単ですけれども、プレゼンに入るに際しての私のあいさつとさせていただきます。皆さん方の意欲に満ちた、そして、わかりやすいプレゼンを期待しております。本日はどうもありがとうございます(拍手)

事務局 区長、どうもありがとうございました。

中山区長 申しわけありませんが、ここで失礼いたします。どうもすみません。

事務局 それでは、引き続きまして、このNPO活動資金助成の審査に当たっています新宿区協働支援会議の座長でもあります久塚委員よりごあいさつ申し上げます。座長、よろしく願いいたします。

久塚座長 こんにちは。当委員会の座長をしております久塚と申します。NPOの活動資金のプレゼンテーションの審査に当たりまして、簡単ではありますがごあいさつをさせていただきます。

先ほど区長からのあいさつにもありましたけれども、このNPO活動資金助成事業も3年目を向えました。今年度も昨年と同様に、区からの財源が100万円、それから、貴重

な寄附金という形で100万円、合わせて助成総額が200万円という形になっております。先月26日の協働支援会議におきまして、23団体の申請に対しまして第1次の書類審査を行いました。そして、本日のプレゼンテーション実施団体として15の団体を選考しております。申請内容を見ますと、多種多様な申請事業があって、その内容も年々充実してきているというのが率直な感想でございます。私どもの新宿区協働支援会議では、NPOの活動資金の助成審査のほかに、区が力を入れている協働のまちづくり、あるいは仕組みづくりということについても審議を重ねておりまして、提言をさせていただいております。

昨年度は、先ほど区長も申しましたけれども、協働事業提案制度、要は、さまざまな活動を展開している区民の方からの、事業として実施していったら新宿区はどのようにマッチして1つの事柄を推進していけるのかというようなことを進めてはどうかということについて議論しました。それから、協働事業評価制度、協働ということについて、私ども区民がどのように評価するのかということについて審議を重ねてきました。それを報告書に取りまとめて3月に区長にご報告をさせていただいた次第です。いち早く、私どもが報告をした事柄について、先ほど中山区長のお考えもありましたけれども、事業化にそれが結びついたということで、委員の私どもも大変うれしく思っております。新宿区では、区民会議、それから地区協議会等々、参画と協働ということで新たな自治、公共空間づくりに取り組まれているということについて大変感謝しておりますし、これからも私どももさらに頑張っていきたいと思っております。さらに、区民の方々から、当委員会にも、さまざまな分野に意見を出していただいたり、私どもも、区に対してさまざまな発言をしていきたいというふうに考えております。

本日は、各団体からプレゼンテーションしていただいた後に、協働支援会議の各委員から質問をさせていただくというような形をとります。これは昨年度と同様のものです。各団体の皆さん方、多少緊張されておられるかもしれませんが、極めて短い時間ですけれども、日ごろの活動を伸び伸びとプレゼンテーションで発表していただければというふうに考えております。

今日のプレゼンテーションがすばらしいものとなるように委員一同大いに期待しております。簡単ですけれども、開会に当たってのあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

事務局 座長、どうもありがとうございました。

それでは、引き続きまして、地域調整課長・河原から各委員のご紹介をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

河原課長 事務局でございます。地域文化部の地域調整課長の河原でございます。私のほうからは、委員さんの方々のご紹介をさせていただきます。

まず、ただいまごあいさついただきました早稲田大学社会科学総合学術院教授・久塚純一委員でございます。久塚委員につきましては、当支援会議の座長を務めていただいております。

続きまして、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会事務局次長・鈴木歩委員でございます。

続きまして、公募委員の小原聖子委員でございます。小原委員は、北山伏子育て支援モデル事業でございます「ゆったりーの」で活躍されております。

続きまして、富士ゼロックス東京株式会社CSR部社会貢献推進グループ・伊藤清和委員でございます。

続きまして、新宿区社会福祉協議会ボランティアセンター課長・伊藤圭子委員でございます。

なお、この新宿区協働支援会議委員には、もう一方、NPO事業サポートセンター専務理事でございます宇都木法男委員がいらっしゃいますけれども、本日はご都合により欠席でございます。本日はこの5人の委員の方々にご審査いただきます。

事務局 それでは、続きまして、本日のプレゼンテーションの実施方法の概略につきまして、事務局のほうからご説明させていただきます。

本プレゼンテーションですが、1団体の発表時間は7分以内とさせていただきます。発表時間につきましては時間厳守でお願いいたします。発表に際しまして、3分前になりますと事務局のほうから、「あと3分」のボードを出させていただきます。また、ラスト1分のときにもボードを出させていただきます。時間が終了しましたらブザーがなりますので、ブザーがなりましたら速やかにプレゼンテーションを終了してください。

本日、プレゼンテーションにおいて、次の順番になりましたら、そちらの団体については右側のサイドステージのほうでご準備をお願いします。

それから、発表内容につきましては、助成対象事業を中心としてご説明願います。その発表内容に各委員から3分間の質疑応答時間もございます。こちらも3分で、ラスト1分になりましたら、事務局のほうから「1分前」のボードを出しますので、時間厳守で願

いたします。質問に対しまして回答する場合については、時間が限られていますので、要点を簡潔にお答えいただきたいと思います。

プレゼンテーションの説明者ですが、3名以内とさせていただきます。3名以上おいでいただいている場合、それ以外の方は傍聴していただく分には一向に差し支えございません。前に出てきて説明する方については3名以内ということをお願いいたします。

本日のプレゼンテーションの方式につきましては自由です。前もってパワーポイントを利用したプレゼンテーションをお申し出ている団体のみパワーポイントを用いて説明ができます。それ以外の団体につきましては、配付資料等、資料に基づく口頭説明ということになります。

プレゼンテーション中につきましては、他の団体についての退出等は自由です。ただし、プレゼンテーションの順番のときに不在の団体につきましては、審査対象から除外させていただきますのでご注意ください。

本日のプレゼンテーションの結果につきましては、6月27日火曜日に決定通知書の送付をさせていただきたいと思っております。また、この通知書の中には、交付依頼文書がございますので、請求の交付依頼文書については7月5日水曜日までに助成金の請求依頼書を出してください。助成団体については、助成対象事業後2カ月以内に事業報告書を提出していただくこととなります。期間内にご提出がない場合につきましては、助成が取り消される場合もございますので、期間についてはお守りいただきたいと思います。

それでは、プレゼンテーションに入ります。

プレゼンテーション 1、みんなのおうち、事業名が「子育て支援コア仲間の愉快的週末企画準備ツアー」です。

それでは、みんなのおうちの皆様、よろしくお願いいたします。

説明につきましては、こちらのほうに、ポインターを用意してありますので、ご利用される団体はこちらのポインターを活用しながらご説明ください。

それで、もう一度再確認いたしますけれども、結果の通知書については、27日火曜日に送付させていただきたいと思っております。

それでは、よろしくお願いいたします。

みんなのおうち よろしく申し上げます。郊外宿泊型子育て支援施設「みんなのおうち」を紹介いたします。私は副代表理事のヨシムラと申します。

私たち、郊外宿泊型子育て支援施設、NPO法人「みんなのおうち」は、約2年の準備

訪問などを経て、昨年3月に認可を受けたわけです。ほぼ毎月1回、新潟県の魚沼地域を訪問しております。この2年間ほどのツアーから選んだ写真をスクリーンで紹介いたしますので、ごらんになりながらお聞きください。

(パワーポイント)

宿泊しているのは新潟県の豪雪地帯です。魚沼産こしひかりで有名な米どころ、魚沼市赤土にある、建坪が100坪ほどの大きなログハウスです。私たちの知人が定年後のお住まいとして購入されたものを「子育て支援に使って」と提供してくださっているところです。

薬王寺学童クラブ父母会の現役とOBの交流会が始まったのは、私たちの取り組みが家族会の余計な壁を取り払い、子育てを互いに支援し合う地域の大人の交流を再生し、発展させようとしているのです。この2年間ほど続けている訪問の体験では、みんなが自然に触れ、時を忘れ、子どもたちはすぐに交流を始めます。会話も苦手だった親たちも、子どもを中心につながりが広がります。力仕事など、日ごろは影の薄い父親たちも生き生きとしてきます。大きな木を切り裂いて組むキャンプファイヤーなど子どもたちの提案です。ことしの冬は特に雪かきも頑張ってくれました。自然に助けられた遊び、温泉、自炊、雑魚寝と、家族を超えて交流する中で、問題を抱えた家族が立ち直っていくことも生まれています。親子や周りとの関係改善の必要が感じられる、気になる家族も誘い合っています。繊細で英気をもった方が他の方を応援する側に進むことも現実のものとなっております。

また、家族同様に、地域の子もたちを受けとめられるフリーサポーター家族も生まれています。魚沼においても、最初は遠慮されていたご近所の方たちが、まず、子どもたちが、そして年配の方たちまで一緒に総出で集まってくれるようになりました。最近では、子どもたちの共同作業を通して、生きる力をはぐくもうとする地域のNPOの方たちが見学にいらしたり、大人の交流会に参加いただいたりするようになりました。今後、魚沼地域の方たちとも交流を深めていく方法も少しずつ見えています。

みんなのおうち それでは紹介させていただく者がかわります。代表理事のイシバです。外国籍家族と行った楽しいツアー。これは、昨年の助成の事業をした際、ツアーと一緒に生活し、遊んでみて、外国籍の親、そして子も、育ちの途中である悩みを日本人家庭と同じように抱えていることを感じられました。いろんな子や親が大事にされる場、評価してもらえる居場所が必要だと改めて感じました。2歳の子どもを育てたCさんの様子は痛々しかったです。本人はほとんど日本語をしゃべれず、駅の行き方がわからず、日本人のお

友達のご協力もないのでしょうか。子どもが泣くたびにただ泣くだけで、目が泳いでいました。一たん受けとめ切れずに、ただ泣きやんでくれとだけ思っているようでした。子どもは夜になると不安になるのでしょうか。ずっと泣きじゃくっているわけです。親がリラックスできて、話を聞いてもらえる場所で過ごさせてあげたいと思いました。

参加外国籍家族が感じたことを幾つか紹介します。

地域の日本人家族が外国人である自分たちに対してとても親切だったことが驚きでした。日本では、外国人の家族は敬遠されるのではないかと不安を今まで持っていたが、今回の旅行でその不安を打ち消すことができ、外国人である自分が尊重される存在であることを強く実感できた。日本の暮らしの中で子育てが一番の悩みだった。しかし、みんなで話すことで、同じ悩みを持っているのだということがわかり、情報交換したり、いろいろなアドバイスをもらったり、とてもうれしかった。最初は自信なさげだったアジア系外国人の妻を持つ夫たちが、お国料理を振る舞う妻の姿を誇らしげに思い、胸を張り始めたのがうれしかったです。

Aさんは、保育園ではあまり話をしなかったそうです。ツアー後は、他の保護者にツアーの話をしたり、行事にも積極的になっていると同じ保育園の「ゆったりーの」のスタッフから聞きました。

3月末に再会パーティー、7月2日には今年ファミリーの交流が続いています。今年のテーマは、子育て支援体制の地域連携と交流、そして相互支援です。私たちNPOのメンバーは、新宿区で今子育て中です。自分たちや周辺の親たちが抱える子育て課題はさまざま、親子の抱える不安は大きなものです。ニーズは、私たち子育て支援の親からも直接聞こえてきます。

それら個人の子育て課題を受けて、新宿区では次世代育成計画に基づきいろいろな試みが実行され始めています。プレイパーク、地区協議会、生活塾などなど、これまでの活動から一歩踏み込んだ区の提案が実施されています。それらの試みが、今、子育て中の家族に実効性のある支援の形をつくり出していくには、行政と組むよりも、まず中間支援が必要だと私たちは感じています。子育て支援は、区民のプライバシーに直接触れる行為でもあり、具体的な支援の手をどのように差し伸べていいのか、区民個人レベルでは困難な場合が多いのが実情です。「みんなのおうち」は2年の準備期間を経て発足2年目ですが、牛込地域を中心に、子育て中の親たちが自然遊びの共有体験活動を通して、家族交流を成熟させて具体的な子育て支援をしています。

一例を挙げると、ネグレクト的な母親と子どもに週1回定期的に支援観点でご飯を食べさせ見守っています。そういう中で、母子ともに安定しています。これからは、身近な、問題点には気づいているけども、実際に支援に至らない場合であります。結局、周りにいる支援団体がなかなか手を出せないでいる中に子どもたちが滑り落ちている、そういう状態であります。私たちはそれをぜひつなぎ合わせるために一緒に経験交流するということをやりたいと思います。

既に私たちのツアーに何回か参加した牛込地域のお母さんが、子育て支援の交流と相互支援を行うアプローチをつくり、新宿区地域協働事業助成金の助成をもらい、この7月に利用したいとの申し込みも来ています。こんな活動が広がっていくことが私たちの願いです。ぜひ私たちと一緒につながる活動を進めていきたいと思っていますので、助成をお願いいたします。

事務局 どうもありがとうございました。

それでは、質問のほう、よろしく願いいたします。

久塚座長 では、よろしく願いします。

伊藤（清）委員 では、質問させていただきます。

1つは、会の運営についてなんですけれども、とりあえずここに書いてあるのを見ますと、会費がゼロというような形でやっておられるので、通常の運営に支障がないのかなと思ひまして。

みんなのおうち そうですね、本当に自己犠牲ということやってきた限りですが、ただ、それでは続かないので、例えば、実際の私の例ですが、これまでは自腹を切った上にマイクロバスを運転してみんなを連れていくというふうにしていたのです。1年目は何とかなったのですが、それではもたないということで、今年のほうは、運転契約をいただくというふうに今後はちょっと改善していきたい。そういうことと、地域でそういう形で対応する。コアのスタッフだけが全部を支えるのではなくて、そういうふうに変えていきたいというふうに思っております。

伊藤（清）委員 今回の企画についてなんですけれども、正会員、準会員、ビジターで参加の会費が違いますね。その点、どんな形でといいますか、どんなお考えで差がついているのか、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

みんなのおうち 正会員というのは、これまでのNPOを支えてきたメンバーなので、ですから、今申し上げたように、それこそ自腹を切って、みんなの食事を作るだとか、



いろんなお世話をするということで、自分の子どもを忘れてまでも活動しているメンバーですので、そういう利用料ぐらひは割り引くのは当たり前じゃないかという結論にやっと達しまして、そういうふうになっています。

伊藤（清）委員 ありがとうございます。先ほどおっしゃったように、会費が取れていれば、そこから出るということもあるのだと思いますけども、このまま運営のほうをうまくやっていって、効率のある企画、新宿でもいろいろつながるべき点みたいなことでやってほしいと思います。

以上です。

久塚座長 ほかに追加でございせんか。よろしいですか。

ちょうど時間ぴったりのプレゼンテーションで、それと同時に、質問にもパーフェクトにお答えいただいたというふうに思います。みんなのおうちのプレゼンテーションを終わります。どうもお疲れさまでした。

事務局 どうもお疲れさまでした。

続きまして、プレゼンテーション 2、テラ・ガーデン新宿。事業名が「高齢者のためのあきらめないパソコン講座 平成18年度7月コース」です。

それでは、テラ・ガーデンの皆さん、よろしくお願ひいたします。

テラ・ガーデン新宿 テラ・ガーデン新宿でございます。よろしくお願ひいたします。

こちらが理事長の北畠、幹事の北畠、で、私、事務担当のサカシタと申します。よろしくお願ひいたします。

（パワーポイント）

テラ・ガーデン新宿は、2000年の秋から、高齢者の生きがい支援ということで活動いたしております。高齢者が地域の中で生活できる環境づくりということで、これまでご自分の人生の中でそれぞれの場でいろいろな役割を果たしてこられた方に、年をとられてからも生きがいを持って生活していただきたいということで、それを支援するための活動ということをしております。今はパソコンということがやはり求められていることが多いので、パソコン教室を開催しておりますけれども、これからのいろいろな活動としては、それ以外のことも視野には入れております。

活動していく中で、私たちの特徴は、ここにありますが、主婦、学生、サラリーマン、高齢者、子ども、いろんな分野の方々の協力を得て成り立っているところが私たちの特徴だろうと思います。

最初のうち、パソコン教室の参加者はやはり女性の方が圧倒的に多かったのですけれども、だんだん男性の方々を家庭から引き出すことに成功いたしまして、男性の方の参加が多くなっております。

(パワーポイント)

こちら男性の方が多いクラスですね。

(パワーポイント)

教室での授業の際は、こちらのオリジナルのテキストを使いまして、やはり講師1人では手が回りませんので、たくさんのアシスタントの方の協力を得て、愛情を持って、ゆっくり、何かわからないことがあったら遠慮なく質問してくださいということ、忘れてもそれは当たり前、同じことを何度質問してもいいですよということによってやっております。

(パワーポイント)

そして、これは「止まり木」と言って、教室を週に3回、2時間から4時間無料開放しておりますので、そこで自習ですとか、教室のパソコンを自由に使って勉強していただいたり、質問をしていただいたり、そういう時間を設けております。

この「止まり木」は、社協の「ふれあいいいきサロン」にも指定していただいておりますので、社協からも応援にどなたか来ていただくこともございます。

(パワーポイント)

これは、先ほどの協力者の中に高校生というのがありましたけれども、クラーク高校と言いまして、不登校児のための通信教育制の高校がございまして、そのパソコン部の生徒さんたち。「止まり木」の時間にいらしていただいているのですけれども、そこで、「先生、先生」とか言われて、いろんな質問をされたり、そういうことでより自信を持たれたり、自分の居場所というものを見つけ、高校のほうの単位も認めていただいているくらいこちらで活動して、テラ・ガーデンも助かっておりますし、そういうことも連携しております。

(パワーポイント)

これは、夏休みとかのボランティアで中学生、高校生の方にいらしていただいたりしたこともございます。

(パワーポイント)

そして、教室の表舞台だけではなくて、裏でこうしてパソコンの設定ですとか修理とかをしてくださっている技術者の方もいるわけですね。ボランティアで活動してくださって

います。

(パワーポイント)

これは、ことしの春にシステムの入替えをしたときなのですけれども、会社員の方とか、先ほどの不登校児の高校から大学生に成長した子どもとか、あるいは、またこれと別に、引きこもりをしていた若い方ですとか、東京ボランティアセンターのメンバーですとか、それまでは全然つながりのなかった方がこのテラ・ガーデンで協力して活動していただいています。

(パワーポイント)

そして、これは、その作業が終わったときに、テラ・ガーデンのメンバーの中に料理の得意な人がおりますので、そういった方が差し入れをということで、こういうこともやっております。「ちょっと場所が狭いので、もっと広い場所が欲しいね」という話になっておりますけれども。

(パワーポイント)

こちらは、テラ・ガーデンのいろんなクラスがございますけれども、その中で一番発展したクラスといえますか、デジカメのクラスですね。デジカメ入門・中級と卒業なさった方が、「デジカメ実践」というクラスもつくっておりますけれども、そのほかに、生徒主催の「いちょうの会」というのがありますけれども、好きな方がご自分たちで同好会のようなものをつくられて、あちらこちらに撮影会に行かれていますところですね。これは新宿御苑でサクラの咲くころですけれども、それぞれ個人のデジカメを持って、こういうふうに鳥が羽を広げたところとか、一瞬のこういうすばらしい写真をだんだん撮れるようになられました。

(パワーポイント)

これは、テラ・ガーデンのホームページを見て、カナダのケベックの福祉関係の大学の教授の方が飛び込んでこられたということもございました。カナダ大使が同行して来られて。これはまた、恵まれない青少年のための食事づくりを青少年センターのほうに行っておくっているという活動もしておりますので、そこへご案内をしたときの写真です。

(パワーポイント)

これは、昨年新宿区のふれあいフェスタに参加したときの写真ですね。それが写っておりますけれども、みんなでそろいのユニフォームをつくって、ここでこういうふうに小さいお子さんの写真を写して、それをTシャツのアイロンプリントにして販売をしたり、

あと、これは磯辺焼きですね。においでつろうということで磯辺焼きをつくりまして、収益金を新宿区に寄附することができました。

(パワーポイント)

これがつくったユニフォームですね。

(パワーポイント)

これは、新宿区社会福祉協議会への応援ということで、ボランティアふれあいまつりに協力いたしまして、型紙づくりですね。だんだん上手につくりなさいという写真ですね。

ということで、テラ・ガーデンのホームページに こちらはインターネットの接続がないということでお見せできないのですけれども、テラ・ガーデンのホームページを見ていただきますと、掲示板に、あちこち撮影会に行かれたときの生徒さんの写真ですとか、いろんなものを発表しておりますので、ぜひ見ていただきたいと思います。高齢者でもこういう才能を引き出せばここまでできるということで、生きがいを持って生きていただければ生きがいの創設ができたということで、今度の7月も講師のもとで、今回の助成をお願いしておりますけれども、こういう活動をしておりますので、ぜひとも助成をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、引き続きまして、質疑応答のほう、よろしく願いいたします。

久塚座長 では、お願いします。

小原委員 プレゼンテーションをありがとうございました。

まず、講師の方についてお伺いしたいと思いますけれども、各コースの表が出ておりまして、講師の名前もたくさん書かれていますのですけれども、講師謝礼のばらつきが個人によってちょっと大きいなというふうに感じたんですけれども、そのあたりはどうしてこうなっているのか教えてください。

テラ・ガーデン新宿 理事長の北畠でございます。当然のことながら、プロの先生にいらしていただくのと、ボランティアで参加した方との間では差がつきます。やはりそういう形で最高が1時間2,500円、それから最低が800円ぐらい、そういう形で運営しております。800円の方たちも、「これではいただき過ぎだ。私たちはボランティアで参加したのに」とおっしゃっていただいているぐらいでございます。

小原委員 ありがとうございました。

ちなみにこれは各クラス何人ぐらいの生徒さんで構成されているのですか。

テラ・ガーデン新宿 1クラス定員が9名となっておりますが、実際にパソコンが12台ございます。ただ、パソコンはすぐ調子が悪くなりますので、予備を置いてございます。ですから、どうしても入りたいとおっしゃると、最大で12名まではお引き受けできます。

小原委員 参考までに。

「高齢者の生き方、特性を理解できる講師」というふうに書いてありますが、具体的にどのような。

テラ・ガーデン新宿 IT時代、デジタル時代の恩恵をまさに受けているのですが、朝、日が上って夕日が落ちる、これは連続した世界です。連続した世界というのは、デジタルではなくて、これはアナログの世界です。高齢者が生きている世界、これはまさにアナログの世界なのです。ですから、アナログの世界を大事にしたパソコン教室、これが目標でございます。決して、デジタルを否定するわけではございません。だって、ITを入れているのですから。それをどうやってもわからなかった方に、ちょっと私がお目にかかって、顔を合わせただけで気持ちがずっと溶けていくんですね。パソコンには気持ちは乗っからないですね。ですけど、お互いに顔を見合わせて、にっこり笑って、「どう？」と聞くと、「わかった」という返事をして。それが私の言うコミュニケーションの講師だと思うのです。これがわからない講師はクビにしています。そういうことです。

久塚座長 どうもありがとうございました。テラ・ガーデン新宿のプレゼンテーションをこれで終わります。どうもありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、引き続きまして、プレゼンテーション 3、東京都中途失聴・難聴者協会、事業名は「字幕付き落語&耳が聞こえない・聞こえにくくても元気に楽しくしたたかに生きる講座」です。

それでは、中途失聴・難聴者協会の皆さん、よろしくお願いいたします。

東京都中途失聴・難聴者協会 こんにちは。私たちは、東京都非営利活動法人、東京都中途失聴・難聴者協会です。

私どもが今回提案しますのは、少し長いタイトルですけれども、「字幕付き落語&耳が聞こえない・聞こえにくくても元気に楽しくしたたかに生きる講座」というような企画で提案させていただきます。

私は今、声を出してしゃべっておりますけれども、実は全然耳が聞こえません。だけど、普通の人と同じように、声は出すことができる、そういう聴覚の障害を持った1人です。

そのような、声が聞こえにくい人は日本にどれくらいいるか、皆さんはご存じでしょうか。これは、身体障害者手帳をお持ちの方だけなのですけれども、日本では35万人ということです。ただ、手帳を申請しない人、もしくは自分が聞こえないけど、障害を認めない人が随分たくさんおられますので、本当に聞こえない人が日本にどれくらいいるかといえますと、今私どもがいろいろなところで言っているのは、人口の大体5%の人だと。新宿区は30万人の人口がいますので、1万5,000人ぐらいの聞こえない方がおられるというふうに私どもは思っております。

そのような聞こえない人の中で、今、皆さんの寿命が伸びて高齢化社会が進展しておりますので、聞こえない人の大体70%以上が65歳以上の高齢の方ということで、高齢の方というのは聞こえないことをなかなか認めない方が多いので、本当のパーセンテージは70%以上の方が65歳以上の高齢の方というふうに言っております。

だけど、そういう聞こえない人は、普通は補聴器を使ったり、それから、皆さんご存じのように、聞こえない人は全部手話ができると思っておられると思います。手話でおしゃべりされて、元気に暮らしておられる、仕事も立派にやっておられる方が随分います。だけれども、ほとんどの聞こえない方はほとんど私以下、途中から聴覚に障害を持った方はコミュニケーションができないということで、家の中とか、家庭とか、職場とか、町で本当に1人ひとりが孤立して、暗い性格の人が随分います。

ということで、私たちは、そういう聞こえない人を何とか支援したいと。私自身がそういう立場ですけれども、支援したいということで、去年、おとし、こちらの助成をいただきまして、新宿区で「補聴器、聞こえの相談会」というのをやりました。聴力の検査を1人の方で30分ぐらいしますので、なかなかたくさんの人を呼べなかったのですけれども、1回10人とか15人ぐらいの参加しかできなかつたんですけれども、その方たちはいろいろ補聴器に関する説明とか、補聴器の仕組み、聞こえの仕組みなど、それから、聴力検査などを受けていただいて、満足して帰っていただけなんですけど、何か皆さん元気がない。まあ、聞こえないから仕方ないと思うのですけれども、私たちの立場ではもっと元気を出してほしいというような、そういった手はないかということを考えました。

それで、次のページに行きますけれども、私たちの協会の事務所はたまたま新宿の2丁目にあります。JRの新宿駅にある末広亭の前を通ります。落語をやっています。私たちは聞こえないから落語が楽しめない。どういうふうにやれば楽しめるか、こういうことをいろいろ考えました。

こうすることで、迷惑はかけませんが、新宿末広亭に飛び込んでいろいろな相談をしますと、ときには字幕をつけて落語をする芸人さんを紹介するよというようなことを言っていただきました。今回の企画は、私どもは、落語をやっていた方2人ぐらい、それから、色物をやっていた方1人をお呼びして、私たち自身の協会ですべてを横につけていく、そういう企画で皆さん発表して皆さん楽しんでいただこうというような企画です。スケジュールはこういうことですが、

それから、落語と演芸だけでは少し企画が足りませんので、私たちの協会の中で元気に活動していただいている方を何人かお呼びして、パネルディスカッションをその前座みたいにやろうというのが企画でございます。ということで、私たち協会のスタッフ、それから協会員、それから私たちにいろいろ支援いただく方に字幕のこととかいろいろサポートをいただきまして、実行委員会をつくって、何とかこの企画を立ち上げていくというふうに考えています。

それで、このような講座でいろいろな方が参加されておられると思いますが、その方たちと講座が終わった後、いろいろな交流を深めて、これから私たちがもっともって生きがいを持って生きていくためにはどんな企画ができるのだろうかということを、講座が終わった後、改めて皆さんと確認して、来年、再来年度の企画につなげていきたいと思っています。

私ども、これが最初の企画ですが、今年別の大きな大会のときは、落語じゃなくて、今度は歌舞伎に字幕をつけようというようなことを考えています。歌舞伎は、落語よりもちょっと大きな場所でお金もかかりますけど、その企画を手始めに、次には歌舞伎、例えばオペラとかいろいろ私たちが普通の人と同じように楽しめる形でやっていきたいと思っています。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、質問に移らせていただきますが、各委員の方には、少しゆっくりご発言いただきたいと思っています。

久塚座長 質問に出たものを後で字に起こしますので、委員の方、ゆっくり質問をお願いいたします。

伊藤（清）委員 では、質問させていただきます。

まず、会の運営についてなんですが、課題に収益事業による安定した収入の確保とありますが、事業収入のうち、会費を除く事業収入の主なものは何ですか。お教えてください。

東京都中途失聴・難聴者協会 大きなのは、1つは、助成金のウエートがかなり高いですけども、それ以外に、事業収入で、私たち、手話とか、読話とか、それから福祉関係のいろんな講座を開いたり、講師派遣をしておりますので、そういう講師の派遣料みたいな形で事業収入が少しあります。だけど、そんなにウエートは大きくないです。

伊藤（清）委員 ありがとうございます。

次に、今回の事業についてお聞きします。16、17年度の助成事業が発展して今回の事業に引き継がれたことは、ニーズを導き出したことは素晴らしいことだと思います。収入で、参加費が2万5,000円、支出で謝礼ですけども、20万8,000円と非常に大きいので、バランスが悪いんですけども、いかがでしょうか。

東京都中途失聴・難聴者協会 今回の企画そのものが、芸人さん3人をお呼びするという、それから、字幕をつけるのも、全部人に頼まないといけない。ほとんど人にかかわる費用なので、人にかかわる費用が非常に増えています。もっとほかの企画であれば、バランスのとれた事も可能だったのですが、今回、落語を楽しむ、色物を楽しむということで、芸人さんへの支払いの金額が非常に高いということです。

伊藤（清）委員 次に、チラシ・ポスター作成費が3万3,000円とありますが、チラシは何枚作成して、どのように配布するのですか。

東京都中途失聴・難聴者協会 前回も、新宿区の福祉事務所、それから社会福祉会館みたいなところにビラを置かせていただきました。今回も、それに加えて、私どもの協会といろいろ関係している団体、それから、いろんな講演会のときなど、協会でやったとか、団体がやる講演会などを利用して配布したいと思っております。

伊藤（清）委員 最後に1つですけども、今回の助成金がゼロだとこの事業ができないとありますが、本当に無理なんでしょうか。

東京都中途失聴・難聴者協会 できないですね。

伊藤（清）委員 わかりました。

久塚座長 どうもありがとうございました。東京都中途失聴・難聴者協会のプレゼンテーションを終わりたいと思います。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、続きまして、プレゼンテーション 4、全国日本語教師会。事業名は、「夏休み親子日本語教室」です。

それでは、よろしく願いいたします。



全国日本語教師会 よろしくお願ひいたします。NPO法人、全国日本語教師会の事務局を代表しております佐藤根と申します。広報関係を担当しているカスヤです。よろしくお願ひいたします。

当教師会のほうでは、主に通常は日本人対象の日本語教師に関する講座、外国人対象の日本語教室、そして日本語教師の派遣等などの事業を行っております。今回は、助成金申請のプレゼンテーションということで、「夏休み親子日本語教室」に関する説明を行いたいと思っております。

提出しました資料の2ページ目をごらんください。済みません。パワーポイントを使いませぬので、資料だけの説明となります。

2ページ目ですが、夏休み親子日本語教室の目的ということで書いております。まず、本事業は、日本人を対象に「日本語指導員講座」、外国人を対象に「夏休み親子日本語教室」、そして、同経過発表の場として「子ども交流パーティー」の3部構成になっております。「夏休み親子日本語教室」と聞きますと、文字どおり、外国人親子に対する日本語教室ということがメインであり、直接の目的になっておりますけれども、当教師会としましては、本事業を日本人と外国人が交流を深めて、主体的に地域活動に参加していくきっかけとなるものとしてとらえております。

では、次、3ページ目のほうにまいります。新宿区における外国人児童・生徒の状況なのですけれども、その前に、全国的に外国人の人口が増えております。文部科学省の調査によりますと、17年度9月の調査ですが、外国人児童・生徒数が2万人を超え、過去最高に達しております。新宿区内の公立小・中学校の児童・生徒に関しましても、年々その数字が伸びております。13年度であれば319人、17年度におきましては365人と増えております。資料の右上の数字ですけれども、これは2004年の数字です。2005年の数字のほうは、ちょっと調べがつかないということで、ちょっと古いものですが、その数字を挙げております。

新宿区における外国人児童・生徒数は361人、外国人女性人口が1,370人で、就学率が26%です。外国人比率が2.4%ですが、就学率におきまして23区の平均が39.2%。新宿区が26%ですので、ちょっとそれを下回っております。外国人比率に関しましては、23区の平均は1.7%、新宿区が2.4%ということですので、外国人比率は高いけれども就学率のほうが低くなっている、そういう現状があります。

次、学校内の外国人児童・生徒の受け入れの課題ですけれども、日本語が不十分という

ことで、学校生活への影響、教科の理解困難、保護者とのコミュニケーション不足といったようなことが生じまして、外国人に対する偏見・差別を含め、そしてまたそこから就学問題というようなものが起こってきます。それに対して、学校では日本語教員の配置が行われているのですけれども、それは、通訳的な存在になっております。当教師会としましては、通訳といたしますと、やる本人からするとちょっと受け身的な関わり方だと思わずね。そうではなくて、外国人も日本語を学んで、地域活動に参加していく、その認識をしたほうがいいのではないかとということで、児童・生徒とその保護者への日本語指導というものを考えました。外国人の児童・生徒の状況はそういうことです。

次に、4ページ目ですが、日本人側の日本語教育に関する関心についてです。地域社会のほうでは、隣に住んでいるのが外国の人であるということが珍しくはなくなってきました。ただ、珍しくはないのですが、言葉の壁というものがございまして、そこから日本語教育への関心というものが高まっております。

当教師会では、昨年より地域区民講座というものを実施しております。また、国際文化交流財団の依頼を受けまして、多文化共生プラザで、区民向けの少し長めの講座ですね、日本語教育に関する講座を行いました。その参加者の声として、1つに、地域社会貢献。具体的に貢献をしたいのだけれども、どうしたらいいのかわからない。もう1つ、日本語教育に興味があるのだけれども、実際の教え方がわからないというような声が上がっていました。何か私たちはしたいと思うんだけど、きっかけをつくるのがちょっと難しい状況なんだということがわかりました。そういう状況です。

こちらは学校内のほうの日本語教育ですが、先ほど申しましたように、学校では日本語指導員が配置されておりますが、通訳としての存在としてやっております。また、教員がそのまま日本語指導をしている場合も多いんですね。ですので、現場では日本語指導に関してちょっと難しいという状況があり、私どもが必要ではないかという状況になっております。

では、次、5ページ目ですけれども、イメージ図になっております。

教師会のほうが、学校内では日本語指導員として、外国人の家庭に、そして区民に出かけて行ってこの事業をするのですけれども、区民と外国人家庭の交流を深めていくことができると思っています。

以上、社会的な背景と当教師会の考え方ということで述べさせていただきました。以上です。ありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、質疑応答をよろしくお願いいたします。

久塚座長 では、質問をお願いします。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。では、質問させていただきます。

去年も同じような研修を実施されているようなのですが、今年の日本語指導員の初級というのは、全く初めての新人の方に対して行うものなのか。これは、去年のフォローアップ研修というような形なのでしょうか。それで、修了者に対してフォローアップ研修はお考えでいらっしゃいますか。

全国日本語教師会 まず、日本語指導員講座に関して、昨年度も実はこの教室のほうはございまして、助成もいただいたのですが、昨年度の反省点としまして、1番最初の日本語講座に関することが挙げられます。これは、全くの初心者でも学ぶことができますし、模擬授業などを行い、実践力も養います。したがって、ここで学んだ人が夏休み親子日本語教室のほうで教壇に立って教えるという流れをとります。昨年度は、教壇に立って教えるまでは至らなかったもので、そのつながりを今回持たせるようにしております。

また、この講座が終わりまして、その後、地域でボランティア活動もできますし、さらに高度な日本語教師としてのステップアップの道もございます。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

あと、日本語教室の教育の初級に参加した人から、今おっしゃったように、親子のほうの先生になっていただくということなのですが、今回はその方のみで対応できる研修になっているのでしょうか。

全国日本語教師会 はい。日本語教室のほうの日本語教師ということで、当教師会の会員も参加いたします。

伊藤（圭）委員 そうですか。それで、謝礼のほうに3,000円と1万5,000円と謝礼に差があるのですが、スタッフの方なのでしょうか。何か資格がおありなののでしょうか。

全国日本語教師会 資格を取りますが、日本語教員講座講師というものは教師が一定ということになっております。コマ数もたくさんですので、3名でやるのですが、金額が大きいということで、10コマとってあります。下の日本語教師に関しましては、これが1コマのための料金になります。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

あと、現在行っている事業のうち、各種助成を受けて実施に当たっている事業をお聞かせください。

全国日本語教師会 当教師会は2004年6月に発足したのですが、助成に関してはこの新宿区の助成以外にはございません。

伊藤(圭)委員 ありがとうございます。

久塚座長 よろしいですか。では、夏休み親子日本語教室、全国日本語教師会のプレゼンテーションを終わります。どうもありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、続きまして、プレゼンテーション 5、国境なき子どもたち、事業名は「『友情のフォトグラファー』2007写真展」です。それでは、よろしく願いいたします。

国境なき子どもたち 国境なき子どもたち事務局から参りましたオオタケアヤコと申します。よろしく願いいたします。操作のほうが不慣れですので、恐縮ですが、着席して進めたいと思います。

(パワーポイント)

「ともに成長するために」 国境なき子どもたちの活動理念でございます。私どもは、海外における援助活動を行うと同時に、ともに成長していくということを目指し、日本の子どもたち、それから青少年の方々に対する教育的なプログラムを実施しています。

まず第1に、アジアでの援助活動でございますけれども、ストリートチルドレン、それから人身売買の被害に遭いました青少年、そしてスラムに育ちながら家計を助けるために働かざるを得ないような状況にいる子どもたち、そうした子どもたちを対象にしまして、自立の支援を行っております。それに加えまして、スマトラ大地震、津波の被災国、それからパキスタンの大地震、今月に入りましてインドネシア・ジャワ島の被災地にも行っておりますけれども、こうした災害の被害に遭った子どもたちを対象に、私ども教育ですとか、心理面で支援を行ってきております。

(パワーポイント)

2番目ですけれども、日本の青少年、子どもたちに対して行っております教育プロジェクトでございます。「友情のレポーター」と題しているのですが、1995年から開催しているプログラムです。これは、日本の国内で11歳から16歳程度の子どもたちを公募しましてアジアの各地に派遣するというものです。実際に彼らが現地に行きまして、自分たちと同世代の子どもたち、そして難しい境遇にいる子どもたちと交流をいたします。ただ

交流をするだけではなくて、そうした現状を取材します。それを日本に帰ってから自分たちの言葉で日本のほかの人々に伝えていただく、それがこのプログラムでございます。2004年にラオスに派遣したレポーターがあるのですが、それにつきましては、新宿区さんのほうから助成をいただいたことがございます。

今回申請させていただきますのが、この「友情のフォトグラファー」という写真展です。これは、写真家の方を私どもが活動地に派遣いたしまして、途上国の現状を写真を通して日本の子どもたち、青少年の皆さんに伝えるというものです。ことしに関しましては、5月に、ギャラリーをお借りして、パキスタンの子どもたちを写しました写真の写真展を開催したのですが、260名の方々にお越しいただくことができました。写真という媒体ですが、ある意味、言葉以上にインパクトを持つものでもありますし、また、若い世代の人々に関心を持ってもらう、若い世代の子どもたちを引きつけるという意味でもよいツールだと私ども考えております。

今回ですが、特にこの地域、この新宿の若い世代の人々に対して、このプログラムを開催したいと思っております。特に国際協力に関する理解といったものを深めるのと同時に、私たちのこういった写真ですとか、そういったものを効果的な教材として使っていただくことで開発教育を推進してもらいたいというものです。具体的には、来年の5月中旬を考えております。10日間程度ですが、新宿区内のギャラリーをお借りして開催したいと思っております。この新宿区、特に国際化が進んでいる区の1つだと思うのですが、今後、それに1歩進んだ形でここから発信をしていく、そういったことに私ども貢献していきたいと考えています。

特に今回ですが、新宿区内の公立校のほうへ案内状も送付したいと思っております。と同時に、この新宿区の地域に住んでいらっしゃるボランティアの方々をいろんな形で応募しまして、できるだけこの活動にかかわってもらおうと考えております。これによりまして、若い世代の人々が途上国の現状に関心を持って理解を深めていただく、そういったきっかけになればなと思っています。自分たちが、それぞれ何ができるのかなというところを考えるきっかけになってくれれば、そうした機会を作りたいと考えています

以上です。ありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、引き続いて質疑応答のほうをよろしく願いをいたします。

久塚座長 では、お願いします。

小原委員 予算についてお伺いしたいと思うのですが、事業費がかなり大きな金額になっているのですけれども、主な収入の内訳というのを教えていただけますか。

国境なき子どもたち 私ども、日本国内の個人の方々、それから財団、そういう方々からもご寄附をいただいておりますが、例えば外務省さん、ボランティア職員さんのほうからいただいたり、以前は、国連のハビダットさんから助成いただいたこともありますけれども、近年ではそういった大きな助成のほうはかなり終わっているところで、ぜひ地域の方々にこれからは発信して行って、かかわっていただくことで興味を呼び、さらにご寄附を呼びかけたいと思っております。

小原委員 ありがとうございます。

それから、本事業についてですけれども、2007年5月中旬とありますが、来年の5月中旬ですね。この事業は1カ所だけの開催ですか。

国境なき子どもたち はい。写真展に関しては1度きりです。そして、撮影した写真ですとか、有志の学生の方、教師の方々にも無料で貸し出しをしております。開発教育、そして国際理解の教材に使っていただければと思っています。先ほど申し上げた「友情のレポーター」に関しましても、ビデオでレポートをつくっております、新宿区内ですけれども、区民ホールですとか図書館とか、公立の小・中学校、養護学校に配布させていただいております。

小原委員 ありがとうございます。

あと、区内の公立校には案内状を送るというのがありましたけれども、あと、修学旅行生の受け入れをするということですが、何か学校への呼びかけをするのでしょうか。

国境なき子どもたち 特に案内状という形で送るかどうかはまだ未定ですが、5円玉キャンペーンという、小・中・高校生を巻き込んで自主活動を一緒に手伝ってもらっているのですけれども、今後もできるレベルで寄附を子どもたちにもしてもらおうというキャンペーンなんです。そういった形で都内の500校の小・中学校の皆さんに参加していただいております。こちらより、いろいろなところから修学旅行生が見学に来たりしてくれていますので、写真展はそういう企画にもなります。

久塚座長 どうもありがとうございました。国境なき子どもたちのプレゼンテーションでした。ありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、続きまして、プレゼンテーション 6、ライト建築アーカイブズ日本、事業

名が「子供たちとつくるライトイベント フランク・ロイド・ライトの建物を一緒に作ろう！」です。

それでは、プレゼンテーションをよろしく願いたします。

ライト建築アーカイブズ日本 新宿区協働推進委員の助成の第1次審査を通過させていただきまして、今回のプレゼンテーションを申し上げられることに大変感謝いたしております。私は、特定非営利活動法人、ライト建築アーカイブズ日本の副代表理事の南迫哲也というものです。今回のプレゼンテーションは代表の森晃一が案内する予定でしたけれども、6月末まで急に英国での建築集会の参加のために、急遽ロンドンへ代表として行っておりまして、プレゼンテーションを代行させていただくことになりました。どうぞよろしく願いたします。

事業は、「子供たちとつくるライトイベント」と申します。「フランク・ロイド・ライトの建物を一緒に作ろう！」と題しております。総合で60万円の事業となりまして、ライト事業アーカイブズ日本の機関参加費で30万円、助成事業費30万円の申請をしております。実施は来年の1月から5月を予定しております。

まず最初に、簡単に、ライト建築アーカイブズ日本のご紹介をさせていただきます。ライト建築アーカイブズ日本は、2005年10月に特定非営利活動法人として内閣府から設立承認されました。設立までは、新宿区の工学院大学で約2年にわたり設立検討し、2005年7月に、現在の所在地、新宿区北新宿に事務所を開設しました。NPOとしての登記は2005年11月、新宿区には2006年2月にNPOとして登録をいただきました。

ライト建築アーカイブズ日本は、広く社会に対して、フランク・ロイド・ライトと有機的建築にかかわる資料の収集、保管、活用に関する事業を行い、文化の振興を図る活動に寄与することを目的としています。主な事業には、ライトと有機的建築にかかわる調査、研究、教育事業、広報事業、国際交流事業を行っています。

内閣府にNPO設立申請を行い、2005年9月には、豊島区の自由学園明日館で設立記念のイベントを行いました。その際には、新宿区の目白駅に近い区の施設にもこのようなポスターの掲示を行っております。

このときのセミナーでは、私のほかに、建築家・黒川紀章、香山壽夫のほか、東洋研究者のアレックス・カーさん、グレッグドライトの本拠地と言えるフランク・ロイド・ライト財団から、マルド・スタンプさんにも来ていただき、ライトと日本のかかわりの重要性

などを討議いたしました。

現在、一般の皆様にも参加いただけるセミナー、見学会などを毎月開催しています。新宿区地域調整課にもご協力いただきまして、こちらのご案内を送付いただきまして、まことにありがとうございました。

こちらは、今年春に行いましたセミナー、見学会の様子です。多くの皆様に来ていただき、さらに子どもたちにもいろいろな模型を直接つくっていただきました。この木製の模型の制作を今日ここに1セットずつ持ってまいりましたけれども、こういうものを平面図の上に載せまして、建物の構成がどういうふうになるか、そういう説明をいたしました。また、大きな子どもたち、6年生とか中学生には、さらにこういう平面図の上に、こういう屋根とか壁とか床とかそういうものを発砲スチロールで切りまして、それを渡して、実際に内部の空間がどういうふうになるかという理解を深めるような、そういうことをやっております。これによって子どもたちは、本当に建物の内部の空間の関係がどういうふうにできているかというのを理解して、ご父兄の方々にも大変喜んでいただいたと思っています。さらに、次回の企画では、木造による模型、これも企画をしております。また次年度申請を出したいと思います。

以上でございます。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、引き続きまして、質疑応答のほう、よろしく願いいたします。

久塚座長 質問をお願いします。

鈴木委員 発表ありがとうございました。質問させていただきます。

開催時期についてなんですけれども、1月と3月と5月となっているのですが、せっかくなので、夏休みに開催なんてないのかなとちょっと思ったんですが、ご説明いただけますか。

ライト建築アーカイブズ 私ども、このイベントだけではなしに、大人の方々にも見学会ですとかいろいろなことをやっておりまして、その中に入れていきますと、どうしても春先にこれを入れるというような企画をつくってしまったわけです。ですから1月、3月、5月にやらせていただきたいというふうに思っております。これは、夏休みの長い時間ではなしに、1日でできるような企画ですので、そういう意味で、普通の土曜日か日曜日にこれができるということからも自由にできるのではないかと。

鈴木委員 それから、集客についてなんですけれども、ポスター作成されて広報される



ということなのですが、それ以外に広報されるのか、ポスターは具体的にどのあたりに設置されるのか、その辺の予定は。

ライト建築アーカイブズ日本 都内広くいろいろ、会員を通じてですけれども、インターネットを利用しながらやるというのは今後の活動方針として出ております。そういうことで、新宿区の方はもちろんですけれども、そのほかの区の方のためにもなると思います。

鈴木委員 あともう1点、参加費ですけれども、今回、申請の書類ですと500円となっておりまして、豊島区で実施されたとき実績300円となっていたんですが、そのあたりがなぜなのか。

また、小学生向け40ピースの木片で、中学生向け100ピースのスチロール片となっているのですが、数がかなり違うので、参加費も同じなので、今回の相場というのがちょっとわからないのですが、そのあたりいかがでしょうか。

ライト建築アーカイブズ日本 実は、去年それをやりまして、大変な赤字になりました。僕も立ちあったので。今回は材料をつくる原材料ですね。その費用だけでもいただければ大変ありがたいなというふうに思っております。

久塚座長 どうもありがとうございました。以上で、ライト建築アーカイブズ日本のプレゼンテーションを終わります。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、続きまして、プレゼンテーション 7、コミュニケーション・スクエア21、事業名は「地域活動のためのコミュニケーション力講座」です。

それでは、よろしく願いいたします。

コミュニケーション・スクエア21 NPO法人コミュニケーション・スクエア21の、私、プレゼンテーション担当の豊村と申します。よろしく願いいたします。

私どものコミュニケーション・スクエア21というのでは、お年寄りとか体の不自由な人たちがみんなと一緒に心豊かに生きていける社会を作ろうということを目的に、いろいろコミュニケーション活動をしようということで1999年に設立した団体です。

理念としては、触れ合いを通じて、心豊かな共生社会を目指していくということで、このような構図で活動を続けております。その中の1つに、ピポユニバーサル駅伝というのを毎年やっておりまして、去年で4回。ことし第5回目になりますけれども、去年はボランティアに500人参加していただきまして、協賛の団体、行政、企業の団体が100を超える非常に大きな活動となりました。

今回のこの講座ですけれども、どんな講座かといいますと、会社勤めや子育てを終えてこれから地域貢献、ボランティア活動をしようかなと考えている55歳以上の男女が、地域にデビューしていく、そういうような、また、既に活動を始めたけれども、なかなか人間関係がうまくいなくてどうしようかなと考えているような人たちも、すんなりとうまく地域の活動に入っていけるような、1つのコミュニケーションツールといいますか、そういうものを身につけるといことを主にしたセミナーです。

内容としては、よき地域人になるためのマナーとか、話術とか、それからプレゼンテーションの方法ですとか、それから仲間づくりですね。それから、グループやサークルなどのつくり方、そういういろんなノウハウで、年5回から6回ぐらいの内容で何とか身につけられるような講座ということで企画をしております。

それから、こういうコミュニケーションの場合、単なる講座や講義というような形ではなかなか身につかないものですので、実際に交流会とか懇親会をセットにいたしまして、そこで和やかに語らうという、そういう場を設けながら、そういうコミュニケーション能力の定着を図っていきたいというのが講座の内容です。

対象は、先ほど言った高齢の方々になるべく来ていただきたいのですけれども、特に今、団塊の世代ということですね。会社をリタイアされていますけれども、活動意欲を持った方たちにぜひとも地域社会に貢献していただくために、何とか活かしていきたいなというふうに考えております。そういう人たちにとっては、非常にいい仲間づくりと同時に、これからも人生の楽しみ方を身につけていけるのではないかなということを期待しております。

講座のキーワードですけれども、協働参加ですね。これは、まちづくりへなるべく積極的に参加してもらおうということでもあります。それから、コミュニティづくりですね。それから、多文化共生。新宿区の場合、外国人が多く住んでいるということで、なるべくそういう方たちとも、いろんな異文化を生かしてもらおうと。多文化共生ということ。それから、地域文化の再生。地域の隠れた文化、そうしたことをいろいろ発掘していくことによって、地域に非常になじんでいけるだろうと。それから、アメニティーの創造。暮らしやすさ。それから、セカンドライフを応援します。

研修の流れとしては、海外は想定しておりますけれども、順番は違いますけれども、いろいろ異なっていると思いますけど、マナー、表現、プレゼンテーションをひとつお身につけていただいて、それから多文化共生のコミュニケーションであるとか、まちづくり

への参画の方法と技術、それから、NPOやボランティア活動への参加と楽しみ方。それから、地域情報の収集、発信とか、編集の仕方。最後のあたり、何か旅を通して和やかに人々と交流を図ると同時に、いろいろな人の文化を知るという実践もやっていけたらなというようなことも考えております。最後は、交流して自信をつけて修了したいと。そういう流れでこの研修を実施していきたいなというふうに考えております。

やり方としては、ピポの交流方式というのですね。とにかくセミナー、交流会というのを一体となってやりまして、その中にはボランティアの方たちが多数参加していただきたい。最後は、講義で学ぶと同時に、一緒にボランティア参加した人たちと一緒に和やかにコミュニケーション能力のほうを定着させていただく。今までもこういう方法は私どものほうはやっておりまして、好評を得てきたという実績がありますので、このやり方でやっていきたいと思っております。

以上です。

久塚座長 どうもありがとうございました。

では、質問をお願いいたします。

伊藤（清）委員 では、質問させていただきます。

この講座の必要性、重要性は十分わかりますが、参加者の確保が大事だと思いますけれども、そのための講座のニーズを何かの形で把握されたのでしょうか。

コミュニケーション・スクエア21 そうですね。実質的に講座活動などはそれだけではないのですが、私どもの会員のいろんな意見を集約しまして、どういう人たちに1番必要かということをいろいろと話し合いまして、その中から、特に今回は、これからの問題になっている団塊の世代とか、あるいは実際に地域に出ている女性の方でもいろいろな悩みを抱えている方もいらっしゃいますので、その方たちも私どもの会員になっていただこうと思うんですけど、そのようなことも考えた上で今回はコミュニケーションということの切り口でこういう方式でやってみたらいい1つの流れがつかれるのではないかと。そういうことで今回提案した次第でございます。

伊藤（清）委員 ありがとうございます。

募集はどのような方法で行いますか。

コミュニケーション・スクエア21 いろいろ多面的に考えております。もちろん、ホームページ、あるいはインターネットを使ったり、単にチラシではなく、なるべくいろんな場で説明に出ていくとか、あるいは口コミも活用するとか、そんな方法を考えています。

伊藤（清）委員 あと、この講座を受けた人が地域社会でコミュニケーションをとって  
いくための講座参加者のフォローアップなどは考えておられますか。

コミュニケーション・スクエア21 常に私ども、これだけではなくて、いろいろな形  
で交流活動をやっております。できれば、そういうところにも参加していただきたいし、  
秋に行われますピポユニバーサル駅伝のほうにぜひとも。これは、新宿区を中心として東  
京都全域にもわたるような1つのイベントで、そこにも配って、そして参加していただき  
たいなど。そこにつなげていきたいと考えています。

伊藤（清）委員 最後に1つですけども、謝礼にある講師の人はどのような立場の人を  
講師として選んだのですか。

コミュニケーション・スクエア21 それぞれの専門の分野、例えばコミュニケーション  
活動とか、あるいは多文化共生のような、1つの専門的な能力も必要かと思しますので、  
そういう方たち、私どもの会員の中、あるいは理事の中にも、知り合いにおりますので、  
そういう方たちをお願いしようかなと思っております。

伊藤（清）委員 ありがとうございます。

久塚座長 どうもありがとうございました。コミュニケーション・スクエア21のプレ  
ゼンテーションを終わります。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、続きまして、前半最後の団体になります。団体名が、NICE（日本国際ワ  
ークキャンプセンター）事業名が「シニア×若者によるボランティア活動の推進事業」と  
いうことです。

それでは、よろしく願いいたします。

NICE（日本国際ワークキャンプセンター） こんにちは。私、特定非営利活動法人  
NICE（日本国際ワークキャンプセンター）の事務局から参りましたオキノと申します。  
今回は、助成の申請をいたしました「シニア×若者によるボランティア活動の推進事業」  
についてご説明したいと思います。よろしく願いいたします。

まず初めに、私どもがやっているワークキャンプという活動があるのですけれども、「ワ  
ークキャンプ」って聞いたことのある方いらっしゃいますか。

ありがとうございます。やはりまだまだ市民権を得ていない言葉だと思うのですけれど。

「ワークキャンプ」と申しますのは、宿泊型のボランティア活動です。1つの地域に宿  
泊をしながら、ボランティア活動を行うというもので、活動の種類は、環境・福祉・教育・

研修などさまざまなものになります。特徴は、現地集合・現地解散というもの、それから、食事だったり生活の基本的なことは自分たちでやるということから、今まで若い方が中心に参加されてきました。現在では98カ国、2,825カ所で行われており、日本でも北海道から鹿児島まで行っております。今までそういったことには若い方は参加していただいたのですが、これからもっと参加者の層を広げて、いろいろな多世代の方に参加していただいて、いろいろな知恵をまぜながら活動していきたいと思い、今回は若者とシニアにターゲットを絞りました。

事業の概要ですが、まず、新宿区の健康部いきがい課が発行している「高齢期の社会参加に関する意識調査報告書」によりますと、50代後期世代の65%が何かしらの形で社会参加をしたいと考えていらっしゃるということが挙げられていました。

一方、NICEの活動に参加する若者、いろいろな場所で、農家さんだったり、お年寄りの方だったり、一緒に作業をやったりする中で、いわゆるシニア世代の方と一緒に活動する機会がありまして、そういった中でもっとコミュニケーションをとって一緒にやっていきたいという声が上がっています。そして、その2つのニーズにこたえるために、今回、「シニア×若者によるボランティア活動の推進事業」を実施したいと思っています。特に50代後期の方は、社会参加したいけれど情報がなかったり、気軽に参加できる機会がないというニーズがあることから、初めての方でも参加しやすい活動を検討すること、それから、情報がないということに対して、情報を両世代から発信するようなことを柱にやりたいと考えています。

活動は、主にボランティアサロンの実施、広報資料の発行、ボランティア活動の実施の3つです。

まず、ボランティアサロンですが、区民の50代後期の方がボランティアや地域について意見を自由に交換する場です。特徴としては、学生のスタッフが毎回か関わることによって、定期的な活動を行って、世代間の交流をはぐくんでいこうと考えています。ざっくりばらんにいろんなことを話すことで交流をはぐくんでいきたいなと考えています。

2つ目の広報資料の発行ということで、「シニアボランティア通信」を発行したいと考えています。これは何かといいますが、これまでの活動の記録ですとか、区内外に限らず、ボランティア活動やイベントの案内、それから、ボランティアに関するアンケートなんかも調査を実施してまとめたいなと思っています。この特徴としては、ボランティアサロンに参加した方に資料の執筆を少し協力していただこうと思っております、それによって

口こみで、同世代から同世代にボランティア活動が広がれば良いなと考えています。

最後に、ボランティア活動の実践ということで、環境、福祉、農業の3つのボランティア活動を行いたいと考えています。宿泊型のボランティア活動がワークキャンプだと申しましたが、環境と農業は1日の活動にしたいと思っています。福祉は泊り込みで、自炊なんかもしながら活動をしたいと思っています。ちょっと区内からは出るのですけれども、日常からリフレッシュをして、みんなと交流を広げられる新しい機会を提供したいと考えております。期待される効果ですが、こういったところに参加した方が地域で実際にボランティア活動をしたりですとか、広報資料を通じてシニア層へボランティア情報を発信する仕組みをつくっていくこと、それから、この活動に参加して区民同士のつながりをはぐくむこと、それと、若者がボランティア参加やその他のイベントに参加することによって協働で行いたいと考えています。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、質疑応答のほう、よろしくをお願いします。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。質問させていただきます。

「シニアボランティア通信」というのを1,000部作られる予定ですが、配布方法というのはどのようにお考えですか。

NICE（日本国際ワークキャンプセンター） そうですね。まずは、関わっていただいたボランティアの方に、自分の知り合いの方に配っていただくということが1つと、あと、社会福祉協議会等を通じて地域に回覧をしていきたいと考えています。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

ボランティア謝礼というのがちょっとわかりづらいのですけれども、例えばボランティアサロンにおきましては、事前に、学生スタッフが毎回かわることにより定期的な交流活動になるということなんですけれども、学生ボランティアさんに謝礼を用意しての具体的ななかかわり方をちょっと教えていただきたいんですが。

NICE（日本国際ワークキャンプセンター） 今回はシニアの方にぜひ広めたいということで、学生スタッフは、私たちNICEの活動にかかわったことのある方で集めたいと思っているのですけれども、具体的に開催する準備とか、事前にミーティングをしたりですとか、あと、広報もシニア活動に関わる学生と一緒に編集作業等に携わっていただきたいと思ひまして、新宿外の方もいらっしゃると思ひますので、その交通費等にあてていただきたいと思っています。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

企画参加者ということで120名予定されていますけど、具体的な企画へのかかわり方を教えていただきたい。

NICE（日本国際ワークキャンプセンター）参加者は、こういったボランティアサロンですとか、ボランティア活動に実際にかかわってもらって、一緒に汗を流して。

伊藤（圭）委員 120名集まりそうでしょうかね。

NICE（日本国際ワークキャンプセンター）何回も活動している方も数えているというのはあるのですが、具体的に区内の区民センターとか、そういう地域のところにピラを張ったりですとか、社会福祉協議会の配っている回覧みたいのがありますよね。最初のほうに載せて広報をしていきたいと思っています。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

久塚座長 よろしいですか。

以上で、NICE（日本国際ワークキャンプセンター）のプレゼンテーションを終わります。どうもお疲れさまでした。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、休憩に入りますが、本日、お手元にアンケート調査用紙のほうをお配りさせていただいています。こちらのほう、今後のプレゼンテーションを含めたNPO活動資金助成のあり方の資料としたいと思いますので、お帰りの際には是非そちらのアンケート用紙にご記入の上お帰りください。

あわせて、今年新たな仕組みとして、協働事業提案制度というもののチラシもお配りしております。こちらのほう、明日と今月の27日に説明会を開催いたしますので、関心のある方はぜひこちらのほうもご出席いただきたいというふうに思います。

それでは、あちらの時計で50分から再開したいと思います。後半、団体が入れかわりますので、またプレゼンテーションのやり方を簡単に説明してから各団体のプレゼンテーションに入りたいと思います。

それでは、50分から再開いたしますので、よろしく願いいたします。

（休憩）

事務局 それでは、定刻になりましたので、ここで改めてプレゼンテーションの説明をさせていただきます。

本日のプレゼンテーションですが、1団体、発表時間は7分以内でさせていただきます。

時間が限られていますので、発表時間は時間厳守でお願いいたします。

発表内容につきましては、助成対象事業、こちらのほうを中心にご説明してください。プレゼンテーションが終わった後に各委員のほうからご質問させていただきます。質疑応答の時間は3分程度とさせていただきますので、要点を簡潔にお答えいただきたいと思います。

プレゼンテーションの参加者、前に来てプレゼンテーションを実施される方につきましては、1団体3名以内でお願いいたします。それ以外の方は傍聴席で内容をお聞きいただくという形になります。

プレゼンテーションの方式につきましては自由といたします。事前にパワーポイントを使った説明の申し出をいただいている団体につきましては、パワーポイントを使っての説明ということになります。それ以外の団体については事前に配った資料等で口頭のご説明でお願いいたします。

プレゼンテーション実施中の退会は自由ですが、自分の順番のときに不在の団体につきましては審査の対象外とさせていただきますので、必ず自分の順番においてになるようにしてください。

それから、本日のプレゼンテーション終了後の最終選考結果につきましては、結果通知書を6月27日火曜日に書面で発送する予定です。また、助成決定団体につきましては、そこに同封してある助成金請求書を7月5日水曜までにご提出くださいますようお願いいたします。また、助成が決定した団体について、助成対象事業が終了した場合については、2カ月以内に事業報告書をご提出ください。報告書の提出がない場合につきましては、助成が取り消される場合がございますので、ご注意くださいと思います。

また、本日のプレゼンテーション終了後に最終助成団体を決定いたしますが、その内容につきましては、区のホームページ、それから広報、そういったもので一般の皆様方にも周知させていただきますので、よろしくお願いいたします。

プレゼンテーションの説明は以上とさせていただきます。

それでは、引き続きまして、後半の団体のプレゼンテーションを実施していきたいと思っております。

プレゼンテーション 9、東京山の手まごころサービス、事業名は「ふれあい・いきいきサロン まごころ『こめこめ倶楽部』」です。

それでは、山の手まごころサービスの皆さん、よろしくお願いいたします。



東京山の手まごころサービス NPO法人東京山の手まごころサービスでございます。プレゼンテーションの発表内容につきましては、お手元にお配り申し上げました資料と、一部パワーポイントに基づいて説明をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最初に、運営主体でございますが、NPO法人、東京山の手まごころサービス。所在地は、新宿区高田馬場1-32-7、信ビル301号。代表者は、私、小西伸彦でございます。

さて、この事業につきましては、昨年の10月よりテスト事業として、今年4月まで計6回実施してまいりました。実施内容につきましては、お手元の資料2をご参考いただきたいと思います。

このふれあい・いきいきサロン まごころ「こめこめ倶楽部」を充実発展させたものとして、今回実施するものでございます。では、この事業の実施経過につきましてご説明申し上げます。

この事業の目的は、新宿区を中心に、創立以来18年間培ってきました住民参加型の在宅介護の経験と実績を活かして地域福祉活動に貢献することを目的といたします。主な活動といたしましては、自宅にこもりがちなお年寄り、障害者の皆様に、まごころ「こめこめ倶楽部」に参加することによって、参加者同士の心の触れ合いと世代間の交流を通して心をリフレッシュすることにより、生きがいのある生活を支援していきたいというふうに考えております。

対象者は、新宿区在住の高齢者と障害者でございますが、一部、新しく設置されました地域包括支援センターから自立等された方たちに対してのインフォーマルなサービスを提供申し上げたいというふうに思っております。年間スケジュールにつきましては、資料、またはパワーポイントをごらんいただきたいと思いますというわけでございます。

#### (パワーポイント)

平成18年6月から平成19年3月まで、開催回数は月2回を予定しておりまして、詳細につきましては、2カ月前に最終決定をしてお知らせ申し上げたいというふうに思っております。

参加予定者は、毎回10名から20名前後を予定しております。

具体的なプログラムにつきましては、コンテンツ、いわゆる心の感性を読み取る力と物事を洞察する力、もう1つは、アビリティ、道具やトレーニングで身につく力の2つをう

まく組み合わせたプログラムとさせていただきます。

具体的には、今、コメントにございますように、音楽療法や回想法、それからADLの自立型健康体操、なお、野外交流、それから、いわゆるおしゃべり会などを計画の中に加えております。地域住民への働きかけといたしましては、新宿区社会福祉協議会、民生委員会との密接な連携で、「こめこめ倶楽部」の活動をPRして、積極的な参加を呼びかけたいと思います。なお、新宿在住のホームヘルパーが80名おりますので、ボランティア活動の1つとして参加者へのPRをしていきたいというふうに思っております。

予算案につきましては、お手元の資料をごらんいただければというふうに思っております。講師及びインストラクターの謝礼金につきましては、1回限り1万5,000円から2万円で、合計7回分計上しておりますが、あとは、有償ボランティアによるサポートで、人件費を極力抑えていきたいというふうに思っております。

介護保険制度と障害者自立支援制度の改革によって、ますます健常者の予防サービスが抑制される中で、高齢者の能力、やる気を含めて、地域の社会支援を活用することが最も必要となってまいりました。今回のまごころ「こめこめ倶楽部」は、高齢者のインフォーマルな事業として地域に貢献したいというふうに考えております。高齢者、障害者の関係づくりは、多くの苦悩や長い時間を割かなくても済むことがございます。ほんのわずかな配慮と定期的なコンタクトを心がけ、一瞬一瞬の意味ある時間を過ごすことがとても大切ではないかと私は経験上から考えております。「こめこめ倶楽部」がその役割を少しでも果たすことができれば大変幸いだと思えます。

これでプレゼンテーションを終わります。ありがとうございました。

久塚座長 では、質問をお願いいたします。

伊藤(圭)委員 ありがとうございます。質問させていただきます。

今までテスト事業として4月からなさっていらっしゃるようですが、この助成によりまして、今までよりも違う効果というのはありますでしょうか。回数が増えるとか、中身が充実するとか。

東京山の手まごころサービス 今までは、月に1度だけということで、私どもの研修室を使って行いました。この結果、かなり地域の住民の関心が高いものでございますから、この助成事業がうまくいきましたら、今お手元に7月のパンフをお届け申し上げましたけれども、月に2回実施してやっていきたいと。でき得れば、これは、まごころサービスのボランティア活動の大きな柱として、来年、再来年、ずっとこういうものを続けていきたい

というふうに思っております。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

あと、将来的にデイサービスを予定されているようなのですが、このサロンとの連携と  
いいですか、プログラムの共有などは予定されているのでしょうか。

東京山の手まごころサービス まごころサービスは、18年間、在宅介護1本でまいり  
まして、一部、去年の暮れに、地域のデイサービス事業というふうな考えが若干あったの  
ですが、やはりここはNPO法人として新宿で唯一の在宅介護をやっている団体ござい  
ますので、何とか訪問介護を当分続けて、きちとした質の高い地域活動をやっていきた  
いというふうに思っておりますので、当分、見送りをしたいというふうに思っております。

伊藤（圭）委員 それと、ひとり住まいの方が利用する場合に、何かサポート体制を考  
えていらっしゃるでしょうか。地域的には、落合と高田馬場の常設の研修室を使われる予定で  
すが、新宿区全域で募集されてということでしょうか。

東京山の手まごころサービス はい。実は、会場難でございまして、今、私どもの2階  
に研修室がございます。ここは15坪しかないのですね。お年寄り、障害者に来ていただ  
くのは、せいぜい15名が限界でございますので、実は昨日、笹笠町地域センターにも行  
ってまいりました。できましたら、各地域の地域センターを使わせていただいて、この年  
間のスケジュールを多少地域的に開催したいというふうに思っておりますが、主体として  
は、戸塚地域が中心になるということでございます。

（パワーポイント）

一応、落合の地域センター等はNPOとしての、今のは落合で開催した写真でございま  
す。いわゆる音楽療法でございますね。今、会場の確保にとっても苦しんでおります。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

久塚座長 どうもありがとうございました。

以上で、東京山の手まごころサービスのプレゼンテーションを終わります。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、続きまして、プレゼンテーション 10、心と身体の健康から教育を考える  
Xing、「コミュニティスペース設立推進事業」です。

それでは、よろしく願いいたします。

心と身体の健康から教育を考えるXing 心と身体の健康から教育を考えるXing  
です。どうぞよろしく願いします。コミュニティスペース設立推進事業についてお話し

させていただきます。

その前に、こうして皆さんの前でお話をさせていただくチャンスをいただけたことに対して、本当にうれしく、大変感謝しております。どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございます。

まず、コミュニティスペース設立推進事業の目的からお話しさせていただきます。ちょっと作文が苦手なもので、こちらで説明させていただきます

この事業の目的を一言で言うならば、安全で、だれもが安心して暮らせる心豊かな社会をつくっていきたいと考えております。かなり大きな目標ですが、この事業を進めていく上でそのような社会をつくっていくことができると信じています。そのためには、人間が人間として人間らしく生きる力を養うこと、そして、それをサポートすることが必要であると考え、そのためにどうしてもコミュニティスペースをつくらなければならないと思いました。

次に、実行に至るまでの経緯ですが、この事業はあくまでも今までの活動を通して得た皆さんの声から生まれたものであるということです。私どもは今年の1月にNPO法人化しましたが、それ以前の約15年間、早稲田を拠点に行ってきた活動から生まれてきたものであるということです。活動地域につきましては、資料の後ろに、簡単ですが、添付させていただきますので、ご覧ください。

それから、この事業を通しまして、今までやってきました活動を通してこちらの3点を企画いたしました。その中でも、心と身体の健康を保持していくことが最も大切であるということを痛感いたしました。

不登校、少年犯罪、家族間の殺傷事件、何が人間を変えてしまったのでしょうか。お金、学歴など、便利でいることで幸せになると勘違いをして、人として1番大切なものが後回しになっている。さらに、急速に発展し続ける携帯電話とパソコン、その進歩の陰に失われつつあるものが多いことも関係しているでしょう。このような反自然の生活や自己中心的な考えにならなければやっていられない社会の中で、心身ともに健康でない人が増えているということに着目いたしました。慢性的に疲れている、いつもイライラ感がある、無気力などなど、特に病気ではないけれども、さわやかな気分にはほど遠く、人生に夢もなく、毎日生きているのがやっとという人があまりにも多く見られるようになりました。目先のことに振り回され、疲れている毎日。心も体も疲れて、人を思いやるゆとりもなくなってしまっています。家族に対してもどのように関わり、何をすべきかという正しい判断

ができず、それが家庭崩壊につながってしまう。まさに悪循環といえるでしょう。本当は人にも優しく思いやりを持って接したい。理屈ではわかっているけど実行できないというのが現実のようです。心と体は表裏一体、体調がよければ、何に対しても大らかに受けとめられ、だれにでも優しくできるものです。反対に、体調が悪いとすべてのリズムが狂うもの。そこで、さまざまな問題を解決していくためには、1人ひとりが心身ともに健康になっていくことが一番の近道ではないかという結論に至ったのです。

それには、どうしても無理なく、知らず知らずのうちに、しかも継続的に心身の健康増進を図ることができる環境を整えるということが必要であると考えました。具体的には、大自然の力を活用すること、そして、日常生活の美化、そして、最後に、自然食を推奨し、体だけでなく心にもよい食事を心がけること、このようなことを中心に、1人ひとりのライフスタイルを改善していくことが必要であると考えています。

また、協調性がない、応用力がない、融通がきかないなど、生きる力の低下につながる現象が年々深刻化しています。私たちは、生活イコール学習であると考え、体験学習を通して知恵を磨き、身につけた能力を生かしていく力をつけることが大切であると思っています。また、多くの人と接することで、優しさや思いやり、命の尊さなど、人として一番大切なものを得ることができ、人生の目標を見出すことにつながると信じています。

さらに、子どもだけを対象にして教育を考えていても、本当の意味での問題解決にはならないということを痛感しております。そのような点をすべてクリアしていくために、どうしてもこのコミュニティスペースは必要であるという結論に達しました。

それでは、私たちの目指すコミュニティスペースは一体どんなものであるか。わかりやすく言うと、全世代向けの児童館のようなものです。いろいろな人が出会い、触れ合い、人を大切に、赤ちゃんからシルバーまでだれもが楽しく学び合い、遊べるスペースです。そして、教育、学習スペースのほかに、お風呂やヒーリングルームなども用意し、現実や自然体験を通して心身の健康増進を図れるように計画しています。

基本理念は、先ほどお話ししました点、それに加えてもう1つ、心豊かな社会を作っていくためのものになるのは1個人であるということです。自分が元気で気分がよければ回りの人にも親切に感じようとすることができますよね。そうすると、回りの人も気分がよくなり、また、回りの人も当然広がっていくはず。いきなり社会を変えようということではできなくても、1人ひとりが元気になっていい気分になっていくことで社会が変わるということは十分期待できると思います。不登校や引きこもりに関しても、本人より、むし

るその親や家族が健康になり、生きがいを見出すことで解決していくことも多いので、このような点からも問題解決につながると思っています。具体的には、当団体を中心にして、ふれあいスペースと学習プログラムを用意し、だれもが楽しめる場所としても活用できるように考えております。

具体的な事業内容ですけれども、今すぐコミュニティスペースができれば、明日にでもできればいいと思っているのですけれども、それはちょっと難しいので、問題提起、意識改革が最重要課題であると考えています。そのために、今このような学習、活動内容を使ってやっているということです。

各コーナーに関しましては、お手元のパンフレット、冊子を見ていただければと思います。ありがとうございました。

久塚座長 質問をよろしくお願ひします。

小原委員 ありがとうございました。

ご説明された理念であるとか、こういったところのできた場合の効果とかがって非常によくわかったのですけれども、目指しているコミュニティスペースという場所が今あるわけではないということによろしいですね。

心と身体健康から教育を考えるXing はい、そうです。正直言ひまして、本当にすぐにでも作りたひのですけれども、場所を探しています。それに関してもいろいろ調べてみたのですけれども、やはり皆さんのご協力、支援活動によって実際に学校を建てるところとかというのは何件も見てまいりましたので、そういった形で育てていただくことができれば、その後のことを考えるとそのほうがいいのかなというふうに思っております。

小原委員 それで、新規事業になっていて、助成対象事業費の内訳は人件費と謝礼と交通費がほとんどを占めているのですけれども、そのスペースを設立するためのセミナーであるとかプログラムで今回の助成は終わりという理解でよろしいでしょうか。

心と身体健康から教育を考えるXing そうです。今回に関しては、実際にそのスペースを作るそのものの助成ということではありませんので、先ほどもちょっと途中になってしまったのですが、問題提起といひますか、まず意識改革ということが第一なんだろうと思っていますので、そのための事業として、それを進めることによって協力者をいただきたいということでござひます。

小原委員 それで、たくさん書いてあって、現在やっていることと新規にやることとい

うのがちょっとわかりづらかったのですけれども、どの部分がこの助成によって新しくやる部分なのか、教えていただきたい。

心と身体の健康から教育を考えるXing 今までにやってきたものというのは、みんなそれぞれ個々にばらばらのような形でやってまいりました。今回させていただくのは、あくまでもこれに向かったの活動であるということですね。コミュニティスペース設立に向けての活動であるところが1つです。

それから、今年1月に設立したばかりですので、まるで新規で、内容が継続している部分もありますけれども、事業形態としては新規の扱いになりますので。事業体としてのコミュニティスペースの設置に関して今まで全く問われたことのない事業ですので、それを推進していくことによって、うちが直接それをやるということだけではなくて、それを進めていくことによって、ゆとりのある生活というのができてくると思うのです。ですから、そのために事業所回りとかということはしていきたいというふうに思っております。アンケート調査も含めてですね。

久塚座長 よろしいですか。

以上で、心と身体の健康から教育を考えるXingのプレゼンテーションを終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、引き続きまして、プレゼンテーション 11、新宿おおくぼまちづくりの会、事業名は「アジアの祭（外国人7カ国の方と一日踊る河内音頭等）」です。

それでは、よろしく願いいたします。

新宿おおくぼまちづくりの会 新宿おおくぼまちづくりの会でございます。

私どもの会は、10月にNPOになったばかりでございます。NPOを作ったそもそものいきさつは、ご存じのように、大久保地域は、大久保通りは国際通りと呼ぶような形で、居住者の5割が外国の方です。地下鉄の13号線が明治通りを通るというようなことございまして、商店の移り変わりも結構いろいろ動いております。いろいろな地域の安全だとか、それから外国の方との意思疎通みたいなこと、そういう問題もございまして、そういう特殊事情を踏まえながら、広くの大久保のまちづくりを考えていきたいということで、花房さんが音頭をとられて、NPOという形で発足いたしました。

そういうことで、大きな活動内容としましては、外国の方とも理解を深めながら、共存共栄というような共生を図りながら、まちづくりを広く全般的に考えていこうということ

を活動内容としております。できたばかりですので、今のところ、会員の中でワークショップを開きまして、理解を深めながら、どんなことをやっていこうかというふうなことで検討してまいりました。

今年の中で、大きな具体的な形としまして、1つは、外国の方等のアンケートというのがございます。それから、市のほうでも載せております、これもすぐ明日ですが、「阪神大震災に学ぶ」ということで、外国の方もできれば大勢来ていただきたいなと思っておりますが、映画会を開きます。それから、ちょっと先の話で、今回、行政のほうにお願いしております「アジアの祭」。これは、前にも大久保祭に協賛する形で出させて、小規模ながらさせていただいているんですが、それを助成いただいて、もっと有意義なものにしていきたいということで申請をさせていただきました。

具体的な大久保祭の話と言いますかアジアの祭そのものについて説明をさせていただきたいと思います。

新宿おおくぼまちづくりの会 大久保に住んで50年になるわけですがけれども、前は50年間は商店街ですっとやってまいりました。ところが、このように商店街も、拡幅とか地下鉄とかできまして、移転、それからやめたりして、多くが全然協力しないということで、本当の祭はどうしたらいいのだろうかということで、去年、NPO法人を立ち上げました。考えてみますと、この大久保地区に1番問題点がたくさんありますよね。私どもの商店街の50年間の運動は、まず、みんな1つにしないといけないということだったわけです。それにはどうしたらいいかということで、地下鉄13号線でもう25年間運動してきました。それから、明治通りの拡幅ということが昭和22年に決まっていながら55年間ほうっておいたのです。その運動も本当に数え切れないくらいやっています。拡幅については平成22年度に完成します。地下鉄については19年度に完成します。やっと大久保も、新宿でこれだけ大きなまちでありながら、確かに西新宿については再開発で本当にすばらしいまちになりました。だけれども、大久保は取り残されて何十年前と全く同じなのです。やっとインフラの整備ができましたので、これからまちを何とかしなきゃいけないところが、駅の各商店街の願いでございます。

それで、いろいろ問題点を考えてみまして、今日はプレゼンテーションということで、1番の問題点は、先ほども言ったように、外国人が半分住んでいる。それと、高齢化社会になっているわけですよ。そういう問題点が出ていますし、大久保も今言ったように外国人が半分住んでいます。何しろ、早稲田大学がこの地元でありながら、若い人が全然協力



しないのですよ。ぜひこの早稲田大学の学生と共働きの高齢者、団塊の世代、こういう一番問題のある人たちを取り込んで、そういう接点を広げていくにはどうしたらいいかということ考えたときに、祭り。2世代、3世代住んでいても、特に高齢者などは小学校などとは疎遠になりますでしょう。若い人はいないのですよ。50歳以上、70歳以上。そういう人たちを取り込んで、アジアの祭は、ひとつコミュニケーションをとって、接点を見ながら、それから解決していかなければいけない。そういう意味でのアジアの祭を、4度目になるのですが、これをひとつだんだん大きくしまして、大久保通りの皆さんも新宿住民になられたと実感するような、まちづくりとコミュニケーションの場を、ぜひひとつやっていたきたいと思っています。ぜひよろしくをお願いします。

久塚座長 もう時間ということで、まだ言い足りなかったでしょうけれども、質問のほうでカバーしてください。

新宿おおくぼまちづくりの会 はい。

久塚座長 質問をお願いします。

鈴木委員 ありがとうございます。質問させていただきます。

既存事業ということで、今年4回目ということなのですが、これまでの参加人数などを教えていただけますでしょうか。

新宿おおくぼまちづくりの会 500人以上です。去年は、残念ながら雨が降って室内でやったために少し少なくなったのですが、日本人と外国の人を含めて、流れて、ずっとじっとしていませんので、大体500から1,000は参加されています。

鈴木委員 前回のお祭りでは、企業ですとか会員さんから寄附などはお集めになられたのでしょうか。

新宿おおくぼまちづくりの会 はい。ほとんど手づくりで始まっていますので、そうしないと、個人で知り合いにお願いして、少しずつ集めて、何とかやってこられたのですが。

鈴木委員 この事業が成功するかどうか、収入の大部分を占める「その他収入」で予算書を上げられているところをいかに集めるかというところがポイントかと思うのですが、去年の実績などをお聞かせいただけますか。

新宿おおくぼまちづくりの会 去年は、個人、企業さん含めて、この予算書に近い数字、ここまではちょっとなかったのですが、100万円前後までは集めることができました。

鈴木委員 あと、予算書を見て、予算に上げられておりますのは、トラックとか、音響設備とか、懐中電灯とかいろいろあって、具体的にイメージができなかったのですが、どのようにそれが使われているのでしょうか。

新宿おおくぼまちづくりの会 大久保通りに4トントラックを借りまして、その上に音頭を唄う人と太鼓と音響セットを載せて、それで大久保通りを、ちょうどその日が体育の日なものですから、その音に合わせてトラックの後ろで踊って歩くということなのです。そうすると、見に来た方も、よさこいとか、そういうのとは違いますので、どなたでも参加ができる。小さい子も、おじいちゃん、おばあちゃんたちも、それから外国の方もみんな入ってきて一緒に踊ってくれるのですね。だから、本当の人数の把握はかなり難しいということなのです。

久塚座長 どうもありがとうございました。新宿おおくぼまちづくりの会からのプレゼンテーションを終わります。

事務局 どうもお疲れさまでした。

それでは、続きまして、プレゼンテーション 12、国際日本語研修協会、事業名は「新宿を世界へ向けて発信する、ボランティア観光ガイド養成講座」です。

それでは、よろしく願いいたします。

国際日本語研修協会 ただいまご紹介にあずかりました国際日本語研修協会でございます。NPOになりまして7年、NPO法ができて既にその前から活動しております。名前のとおり、日本語教育の国際交流をやっておる団体です。

それでは、今日のプレゼンテーションですが、お手元の資料として、チラシが1番上にあります。「新宿を世界へ、ボランティア観光ガイド養成講座受講制度」でございます。

(パワーポイント)

パワーポイントでも説明いたしますが、これは皆さんご存じの新宿駅の西口。どうして西口を撮ったかと申しますと、小田急ハルクの、今、大型カメラ店が入ってますね。この裏に私どもの事務所があります。そういうことで、私どもの事務所ではなくて、その前にあるハルクの道です。

会議室は350名ぐらいで、4分の3が日本人で日本語教育を担当します。あとの4分の1が実は留学生なのです。そういう団体でございます。

今回、助成をお願いしたのは、実は先ほどの団体の方も、新宿区民30万のうちの3万人が外国人であると。23区の中でも飛び抜けて国際化が進んだところなのです。ところが、

現実には、百聞は一見にしかずと言いますけれども、世界じゅうから日本へのぐらいの観光客が来ているのだろうか。

(パワーポイント)

国土交通省の資料です。ここのパワーポイントでご覧になればわかりになると思いますが、2004年の訪日外国人旅行者国別割合がございます。訪日外国人総数は614万人です。実は私どもの資料にあります国土交通省では、インバランスというか、アンバランスというか、外国へ行く日本人の観光客の数は、平成16年度で1,683万人です。ところが、日本へ来られる外国人の人が614万人ですね。ですから、小泉内閣なんかも「外国人観光客を日本へ」と。私ども調べたのは8年。

(パワーポイント)

それでは、その614万の人のうち、どこの国から日本に来られているか。これも、国土交通省と国際観光機構のデータによりますと、1番多いのはお隣の韓国です。それから、これは先ほど大久保の方もおっしゃっていましたが、新宿でも韓国(2:31)が多いですね。パーセンテージで言いますと、約26%が韓国。2番目が、台湾の方が17.6%。3番目が中国で10%です。中国の観光事情は、いろいろな成果がございましたが、昨年度、愛知万博を機会に、割合自由に来られるようになりました。その次には、実はちょっと飛ばしましたけれども、アメリカですね。米国が12.4%。その次が香港で4.19%。この5カ国地域で、日本への観光客の7割がそれらの国から来られています。

それでは、私なんかも、ちょっと前は、日本でいうと京都、奈良と思っていましたけれども、このパワーポイントをごらんになればわかるように、どういう国から来ているか。そこを見ると、東京都が1番、それから各国のあれがありますけれども、現在も、それから韓国とか台湾とかから来るのですね。1番が東京都、その次は大阪、京都、神奈川です。

それともう一つ。この新宿には、早稲田大学を初め、高田馬場とか日本語学校がありますけれども、非常に多い。例えばどういう国から来ているのかというと、中国46%、韓国が29%、台湾が5.0%、早稲田大学や日本語学校から大勢の方が来ている。そこに私どもが新しい事業として考えたものがこういうことです。こういう多くの外国人が来る、留学生も大勢いる。ですから、外国人の留学制度とそれから、日本人のボランティアの人たちが、どうすればより多くなるというような問題。1千万人以上の観光客、リピーターになるのか。日本へ来てくれる、それも新宿へ来てもらうにはどうしたらいいかということで、私ども、養成講座を考えたわけです。

事務局 どうもありがとうございました。

それでは、質問のほう、よろしく願いいたします。

久塚座長 質問をお願いします。

鈴木委員 質問させていただきます。

このガイドの希望というのはどれくらい見込んでいらっしゃるのでしょうか。

国際日本語研修協会 希望者は、全体的には、実は今朝も中国のほうで、私が大学で教えた学生ですけれども、観光学を専攻している大学院生、そういう講座を開くならば参加しなくちゃいけない。というのは、今は中国、それから最近は、この5カ国よりもオーストラリアの人たちが日本に非常に興味を持っています。私どもが、はっきりいって、20名の旅行者のうち10名ぐらいが入学すると。そうしたら、日本人も10名というふうに考えております。

久塚座長 このご質問の意味はどのぐらいの……。

鈴木委員 そうですね。観光客の方が新宿に多いということのお話があったのですが、ご希望などは具体的にもう既に観光で来られた方からお聞きになったりというのはあるんですか。

国際日本語研修協会 はい。実はこのプログラムをつくるので、私ども、いろいろ勉強しました。私自身も、日本観光ホスピタリティー学会の委員でございまして、日本の観光ホスピタリティー学会の勉強をしているのですけれども。結局、我々はどちらかというと、今まで日本の歴史とか文化というと、京都、奈良が中心だったのですよ。現実に留学生に聞いてみますと、「いや違いますよ先生、現代日本なんですよ」。日本の、例えば、どこかで、新宿の大型カメラ店とか何かで売っている最新の電気、それからアニメ、「先生、アニメはどこに行けば買えるのですか」。非常に、いろいろな形で、我々が考えている以上に、外国人の観光客が考えている所と、我々が考えているところとのギャップがあるのじゃないかと。例えば、今回の企画の半分以上の参加が、現実に日本にいる留学生の人たちにどういうふうにすれば、新宿をもっとリピーターが多く来るか、とういうことで努力しているるとやってみようというような思いでいます。

久塚座長 はい、どうも。国際日本語研修協会からのプレゼンテーションこれで終わります。どうもありがとうございました。

国際日本語研修協会 どうもありがとうございました。

事務局 それでは、続きましてプレゼンテーション 13、日本映画映像文化振興セン

ター、事業名が「新宿子ども映画館」です。

それでは、よろしくお願いいたします。

日本映画映像文化振興センター NPO法人日本映画映像文化振興センター事務局長をやっています竹下と申します。すみません座ったままやらせていただきます。

NPO法人になったのは、2000年の11月1日です。事務所は歌舞伎町、西武新宿線の北口10分のところ。理事長は三浦朱門がやっております、副理事長は寺脇研ほか数名でございます。

今回の提案でございます。新宿には大人の映画館はあっても、安心して見に行ける子どもの映画館がありません。当法人では、「新宿子ども映画館」を開きたいと考えています。

実は、4年前から当法人では「子どもゆめ基金」の助成金をもらって子どもたちの交流体験、職場体験ということで、毎年「子どもシネマスクール」を実施しています。小中高生がプロと一緒に映画を作ります。できあがった作品は本格的な内容になっており、それをぜひ皆さん、子どもさん、年配の方、お母さんたちに観ていただきたいと、このたび「新宿子ども映画館」というのを開きたいと考えました。もちろん、内容のいい文化映画とか劇映画も上映していきたいという希望も持っています。

実は、昨年8月1日に、当法人と東京都庁との共催で、「子ども応援フォーラム」という都庁の大会議場で開かせてもらいました。「子どもシネマスクール第3作 きらきら談話室今日からはじまる」という上映をしました。これは、万引きとニートを扱った内容で、新宿区教育委員会の後援をいただいて制作したものです。

当日は、石原都知事、河合文化庁長官の講演、それから竹花前東京都副知事ほかの方々によるパネルディスカッションを行い、500名以上の来場がありました。「新宿子ども映画館」は、その延長線上にあります。

選手交代します。

日本映画映像文化振興センター はじめましてこんにちは。私は、中村銀次と申しまして、一応俳優でございます。今日、もっとスター俳優が来ていたら、もうちょっとインパクトがあったと思うのですが、とりあえず今日は私が伺いました。

以前から私は、こちらの映画文化振興センターさんのほうと、この「子どもシネマスクール」を始め、さまざまな企画に関わらせていただいています。実際に、この「子どもシネマスクール」の現場でももちろんかわらせていただいています。この「子どもシネマスクール」というのは、本当に大ベテランの一流の監督や一流の俳優が、子どもたちに

映画ごっこをやらせるのではなくて、本当に一流のプロの人たちが作る映画の中に子どもさんたちがスタッフとして参加したりするという、そういう一緒に仕事をするという場の、そういう企画なのですね。本当にすばらしい企画だと思います。毎度参加させてもらっているのですけれども。

その結果、できあがった作品ですとか、ほかにもどうしてもこのマスメディアで取り上げる、例えばテレビで取り上げられる作品だとか、大きな映画館で上映される作品だとかって、どうしてもやっぱり商業ベースにのっていないと取り上げられなかったりして、ささやかながらもいい作品というのはいっぱいあるのに、そういう作品が皆さんの目に止まることというのはなかなかないということがありまして、そういう意味も含めてこの企画はすばらしい場になるのではないかなと思います。

それで、私が今日1番申し上げたいのは、先ほど、コミュニティスペースに関するご提案の中にありましたが、あのような問題ですね。特に、最近本当に皆さんも困られているわけですけれども、本当にニュースを見るたびに、毎日毎日少年犯罪に関することですか、いじめの問題ですとか、本当に、子どもたちが大人のせいでどんどんどん子どもたちの理性を失わせてしまっているということ、皆さんも痛感していらっしゃると思うのですけれども、私は映画人の1人として、映画に関して何か少しでも、ささやかながらもそういうことに関する影響力として少しでも軌道修正にかかわりたいなと思ってこの仕事をしております。

例えば、児童館で上映する場合に、もちろんお子さんたちでご来場いただくにも、多分安心してご来場いただけるシステムだと思いますけれども、親子連れならもちろん結構ですし、例えば、お孫さんとおじいちゃん、おばあちゃんが一緒に手をつないできてくれたりとか、そういう場にしていきたいなと考えております。

そもそも少年犯罪とかそういうのは、やっぱりきれいごとではなく、最近本当に、親子ですとか、スキンシップが欠如している、そこが本当に大きな原因だと思うので、本当にきれいごとではなく、本当のスキンシップという意味の触れ合いの場で。よその家の子には関わらない大人ばかりになっちゃっている、これも原因だと思うので、私たちよその大人が、よその子どもと実際にそういう場で触れ合って、「いいかお前ら、悪いことしたらあかんで」という、そういう触れ合いをしていきたいなと考えております。どうぞよろしくお願いいいたします。

あと、シネマスクールというのは、本当に一般のご家庭の方でも参加できますので、そ

ちらのほうも興味を持っていただければありがたいなと思います。直接作品としてもこちら  
のほうで上映してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

久塚座長 では、質問よろしくお願いいたします。

鈴木委員 ありがとうございます。質問させていただきます。

スケジュール見させていただきますと、第3水曜日3時から集まっているのですが、小  
学生、中学生というのは、皆さんこの時間にお集まりになれるのでしょうか、教えてください。

日本映画映像文化振興センター 調べましたところによりますと、小学生は水曜日は集  
まりやすいということなんです。中学生、高校生という方たちが集まれるとは、塾なん  
かもあるので、考えていませんという断言しちゃうのですけれども、考えられないかな  
と思います。それは臨機応変にやりたいと思います。要望によって。

日本映画映像文化振興センター 当面はまず、毎月とかいうペースにはならないと思  
いますので、当面は、例えば、夏休みとか冬休み、春休みを基準にということもよろしいか  
と思いますので。

鈴木委員 会場は児童館を予定されているということで、榎町と書いてあるのですが、  
そのほかの何か予定とか手配は既にされているとか、その辺はいかがでしょうか。

日本映画映像文化振興センター 1番最初に社教のほうにご相談したのですよ。そうし  
たら榎町。やっぱり駅から近くなきゃとか、そういうことじゃなくて、集まっている児童  
館がいいのではないかというお話いただきまして、とりあえずそのほうへ、榎木町と書  
かせていただきましたけれども、これもまた臨機応変でして、これで新宿モデルというか  
たちでうまい具合にいくようでしたら、ほかのところへも広げられればという感じもあり  
ます。ですから、榎町というのは一例としてそこに書かせていただいたわけです。

鈴木委員 今回、初めて制作した映画を上映されるということなのですが、この上映会  
に参加した親子の方に、その後何かつながるようなところはあるのでしょうか。

日本映画映像文化振興センター 上映会に関わったというのは、これから参加してくだ  
さるということですか。できれば、そういう方たちをきちんと組織化というと大げさです  
けれども、そういう方々にお当番制で何かやっていただくとか、そういう形でやっていけ  
たらいいなと思って。そのほうが長続きするのですよ。私も公民館活動長いのですけれ  
ども。そのように思っております。

鈴木委員 はい、ありがとうございます。

久塚座長 はい、どうもありがとうございました。日本映画映像文化振興センターからのプレゼンテーションでした。どうもありがとうございました。

日本映画映像文化振興センター どうもありがとうございました。

事務局 それでは、プレゼンテーションも残すところ2団体となりました。プレゼンテーション 14、ホロコースト教育資料センター、事業名が「先生・保護者向けのセミナー 命と人権を尊ぶ心を育てる授業づくり～ハンナのかばんを教材に」です。それでは、よろしく願いいたします。

ホロコースト教育資料センター ホロコースト教育資料センターの内山です。よろしくお願い致します。

私たちは、第2次世界大戦中のナチスによるユダヤ人虐殺、いわゆるホロコーストですけれども、それを教材として、今を生きる子どもたちに命を尊ぶ心ですとか思いやりの心を持ってほしい、そんな思いで、学校への訪問事業や貸出教材などをつくって、学校に貸し出すという活動をしております。

今、私たちが1番力を入れているテーマが「ハンナのかばん」というホロコーストの中で亡くなった1人の少女の実話なのですが、この本は2003年に小学校の課題図書にもなりましたが、チェコで生まれた1人の女の子の生涯をとおして、命の大切さを伝えるお話です。新宿区にあるホロコースト教育資料センターに届いた1つのかばんがきっかけで、その持ち主を探す旅を始めるところからこの話が展開していきます。現在までにたくさんの国で翻訳されて、今40か国の子どもたちがこのお話を読んでくれます。

私たちは、この女の子が残したかばんを持って、全国の小中高校をまわっています。現在までに約200校ぐらい全国まわっております。また、私たちが作った、こういう貸出パネルが、学校に貸し出しまして、学校の先生方またはPTAのお母様が展示会をしたり、クラスに持ち帰ったり、そういうことをしてくださっています。

さて、私たちは昨年、新宿区の助成金をいただきまして、「ハンナのかばん・子どもミニフォーラム」というフォーラムをやらせていただきました。四谷地域センターですけれども、ハンナの話を学校で聞いたり、本を読んだりという人たちが集まってきて、国内外の友達からたくさん届くお手紙とか感想、絵とか詩とか歌とかそんなものをみんなで共有したり、みんなで意見交換をしたり、そんな会をやりました。

これは、子どもたちが朗読をしてくれている様子ですとか、ホロコーストQ&Aで、「ハ



「ハンナが生きていたら今何歳でしょう」とか「世界には今幾つ国があるでしょう」とか、そんなクイズをやってもらったり、あとは「平和ってなんだろうね」という、ちょっとみんなまで話をしてみたり、平和で難しければ、「みんな何をしているときに幸せかな」なんて、そんな話から始めたり。最後には、みんなでハンナのかばんに1人1人、自分のメッセージを書いて、その中に自分の手で入れてもらう、そんなことをしました。この取り組みは、NHKのニュースでも放送されました。

そして、このフォーラムの報告を含めまして、昨年度は、この「ハンナのかばんスタディガイド」というものを発行いたしました。

子どもたちから、それからまた国内外の声ですとか、過去3年間の訪問授業のアイデア、授業の指導案などを紹介しています。こちらのスタディガイドをごらんいただくと、子どもたちが「ハンナのかばん」をとおして、それぞれの感性で命の大切さを感じて、この教材をいかに身近に感じて、そんなことをわかっていただけたと思います。たくさんの先生方に、このお話をぜひ活用していただきたいと思っています。新宿区内の学校には無料でこれを配布させていただいております。

そこで、本年度の授業は、前年度の授業の継続授業としまして、この教材を学校に送るだけではなくて、こちらのセミナーを開催させていただきまして、この冊子の具体的な使い方をお伝えして、より有効に先生方に使っていただくというそんなセミナーを開くために助成金を申請いたしました。

「ハンナのかばん」は、これまで全国の学校で、命の授業とか人権学習、あとは総合学習、道徳や倫理の授業ですね、あと図書の活動なんかとして、いろいろな学校で取り上げていただいています。子どもたちの心を育てて、命の大切さをわかってもらう教材として評価をいただけてきました。海外では音楽や美術の授業の中にも取り上げていただいています。こうした実践面を含めて、具体的な方法をセミナーで示すことで、新宿区内の先生方にもこの教材を授業の中でぜひ活用していただければと思っています。

主に小学校、中学校の先生方を対象に四谷地域センターでセミナーを開かせていただければと思っています。実施時期は9月を予定しております。ご希望の方に差し上げますので、お声をかけてください。よろしく願いいたします。

久塚座長 では、質問をよろしく願いいたします。

伊藤(圭)委員 ありがとうございます。

昨年度も助成を受けて、「ハンナのかばんスタディガイド」というのをつくられたという

ことですけれども、予定ですと200部作成されるという予定だったのかと思うのですけれども、もう既に予定どおり作成されて、学校に配布済ということでよろしいでしょうか。

ホロコースト教育資料センター 途中ですね、まだ。6月にできたばかりですので、今、配布をしている途中でございます。

伊藤(圭)委員 あと、「ハンナのかばん」は全国の学校でさまざまな学びの場に取り上げられているということですが、新宿区内ではどのような現状になっていますか。

ホロコースト教育資料センター 実は、新宿区内ではまだまだお声をかけていただくことが少なく、去年は、新宿区の平和課のほうで、新宿区歴史博物館のほうでとお話いただいているのですけれども、小学校、中学校ではまだなかなか。区内で、ほかの区はけっこうご依頼あるのですけれども、なかなかまだ、私たちの広報の力の不足というか、いかに新宿区に知っていただけないかと思っておりますので、ぜひ今回、新宿区を重点的に先生方にお知らせしたいと思っています。

伊藤(圭)委員 ありがとうございます。

最後なのですが、昨年開催された、ミニフォーラムなのですが、成功なさったかと思っておりますけれども、新宿区でこの活動をされてみて、感想とかメリットがありましたら、昨年のミニフォーラムの件なのですが。

ホロコースト教育資料センター そうですね、やっぱり新宿区というのは外国の方も多いですし、こういった人権教育とか国際的なそういうことで、本当に子どもさん方、親子で皆さん来てくださって、700人ぐらいいらっしまったのですけれども、会場がけっこう一杯になりまして、これが遠い所でやたらなかなか来てくれなかったかなと。やっぱり新宿区でやったからこそ、来てくださったかなと思っています。

伊藤(圭)委員 ありがとうございます。

ホロコースト教育資料センター ありがとうございます。

久塚座長 では、ホロコースト教育資料センターからのプレゼンテーション終わります。どうもありがとうございました。

事務局 どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、本日最後のプレゼンテーションの実施団体になります、プレゼンテーション 15、森とでんえん倶楽部、事業名は「心身はつらつ・新宿・親と子の協働カレッジ」です。

それでは、よろしく願いいたします。

森とでんえん倶楽部 森とでんえん倶楽部でございます。角保と申します。本日はどうもありがとうございます。また、今日はこんなチャンスをいただきまして、ありがとうございます。昨年もこの機会をいただいたのですが、今年もしっかりした活動を展開してまいりたいと願っております。

実は、森とでんえん倶楽部をつくりましたのは、最近の世相があまりにも荒廃をしていることを憂える者が集いまして、大層なことはできないけれども、足元をそっと照らすぐらいのことはできるのではないだろうか、こういう思いを持った者が集まりまして、これからはそれを続けていくつもりでございます。

その柱になりますのは、人の心をどのように耕していくかという、心を耕す運動に私たちの活動の目を向けて、その活動をする柱は自然に増えているようではないか。人と人との関係の中に埋没しておりますと、どうしても人の心が非常に狭いものになります。自然の中に自分を解き放して見れば、それが広がっていくのではないだろうか、これが1つあります。

それからもう1つは、このような人倫にもとることが頻繁に起こるということは、どこかに問題があるのではないか。これは、私たちはこう見えています。日本が育ててきた心、思いやり、惻隱の思いですね。その惻隱の思いと、もう1つは、もののあわれというものがあるのですが、もののあわれを私たちは忘れてはならないのです。こういう思いを持って、実は今回、新宿区に申請をしてご審議を賜っておりますのは、子どもたちの心を自然に解き放していく、そのチャンスを与えさせてください、これが1つであります。

それからもう1つは、日本の伝統的な心の歴史に子どもたちに触れさせてあげたい。大層なことはできないのです。しかし、新宿区内に今、指導者になっていただける人がたくさんおいでになります。地域センターを中心にいろんな活動をなさっておられると思います。こういう方々のお力をいただいて、子どもさんに来ていただく、その努力を私たちがやりましょう、知恵は地域の方の知恵をおかりしましょう、こういう協働の精神を基にしていきたいというふうに思っています。

「協働カレッジ」という言葉を使わせてもらいました。この「協働カレッジ」というのは、実は去年、新宿区が勉強会を市民のために開かれたのですが、私はそれに参加いたしました。「協働」という言葉がいかに大切かということですが、これを実は親子で協働してみようと。知らない人同士が協働してみる、地域の方の知恵をかりて協働してみる、行政やいろんなところと協働してみる、そういう展望のある活動をこの中に取り込んで、これ

からも続けていきたいと思っています。

今日ご審議を賜っておりますのは、その2つの問題です。森林体験をしながら、子どもの心を解きほぐし、お父さん、お母さん一緒に、共通の思い出をつくってまいりましょう、こういうことであります。

それからもう1つは、日本の伝統文化をほんのちょっと、入り口だけ見ていただきます。琴の音というのはこんなものなんです。琴の音は聞いたことがあると思いますが、琴にさわったことはないという方はたくさんいると思います。琴はこうなのだという、それを見ていただく、こういうような思いで計画を立てております。

ご審議よろしく願いいたします。

久塚座長 プレゼンテーションはよろしいですか。では、質問をよろしく願いいたします。

伊藤（清）委員 では、質問させていただきます。

まず、森とでんえんさんも、正会員さんが30から32名にふえたと。団体会員も3団体から7団体に4団体増えたということで、今年もかなり会員を増やす活動をされると思うのですが、活動自身に関わることなんですが、どのぐらいの会員さんの予定を組んでおられるのかということと、準会員というのがあるんですけども、その人たちは何人いるのか、その点をちょっと教えていただきたいと思います。

森とでんえん倶楽部 私たちの会員は今33名でございます。4月1日で個人会員が33名、団体会員が8団体でございます。現在の会費は60万円になりますが、60万円の払い込みが終わりました。これを今年の私たちの活動の原資にしています。

私たちは、これに携わりますが、専従者はいないのです。そして、これに携わる者は日当も何もありません。交通費もございません。交通費も、ほんの少し出ればよいということとして、すべて担当をボランティアでやっています。宗教団体ではないかと言われることもあります。そうではないのだと。私たちの思いが背の丈以上にあるものだから、年寄りの冷や水でやっているのです、こういうこともやっています。そういうことで、準会員は、実は制度は持っているのですが、現在はございません。初年度はあったのですが、今はなくて。それから、会員づくりは、今年は10会員を目指しております。10会員といたしますと、30万円になるわけです。入会金と年会費で30万になります。30万円を調整すれば60万円でございますから、90万円あれば、ささやかな原資ができる。ご支援をいただいた資金で活動をしながら、我々の資金も充当しながら、何とか今年も乗り切

れるかなど。来年はどうするのだと。いろいろございます。年もとっておりますから、もう少し方向性のあるものを今年のうちに打ち出さなきゃいかんと思っておりますけれども、残念にも、お金を集めることが非常に下手な者ばかり集まっていますので、その点は苦慮しておりますが、努力してまいります。

伊藤（清）委員 今年の事業計画についてお尋ねします。

3回のイベントがあるのですけども、山関係1、それと文化関係2なんですけども、これは全て独立したものでしょうか。それとも、文化関係は2とありますが、ある程度連携しているものにとらえたのでしょうか。

森とでんえん倶楽部 3つとも、山も文化も一体で考えております。心を山が解き放し、その心を日本の育ってきた地域やその他文化に少し触れて、またそれに磨きをかけるというような、子どもさんたちが近くにも、私たちは日本人なのだ、私たちは日本に住んでいるのだ、日本の文化を私たちはここに住んで自分たちのものになっているんだと。これは、よそから来た人も、外国から来た人も、日本に住んだら日本の文化に親しもうとなるのではないかと。それが私たちのねらいであります。

実は、この土曜日、日曜日も、白根山のふもとに中国系の学生たちを30人お連れいたします。ここでも、琴の音とお茶の作法を見ていただくということをやっております。

久塚座長 よろしいですか。

時間が参りました。森とでんえん倶楽部のプレゼンテーションを終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

事務局 どうもお疲れさまでした。

これをもちまして、15団体のプレゼンテーションが終了したわけですが、ここで支援会議の座長であります久塚先生のほうから総評を一言いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

久塚座長 以上で15団体のプレゼンテーションを終わります。お疲れさまでした。

昨年度と比べるとというようなことは単純にできないと思いますけれども、プレゼンテーションの技術をさまざまな形で伺うことができました。参加していただいたNPOを含め、新宿が持っている特性を反映するかなのような国際的な問題であるとか、あるいは新宿が持っている古い部分と新しい部分に関係するようなNPO、そういうほかの地区では見られないような団体が多くあったかのように感じております。限られた時間でのプレゼンテーションであったということから、大変申しわけなかったのですが、そこはそれぞれの委員

から質問でカバーするという形で、私ども、それぞれのNPOについての情報を資料を含めて十分手に入れたつもりであります。この場は、それぞれの団体にとってもプレゼンテーションの場であると同時に、お互いにどのような団体が活動しているのかということを知ることができる場であるというふうにも考えております。これからも、私どもも皆さん方からのご意見をちょうだいしながら、さらによい事業展開ができればというふうに考えておりますので、皆さん方、積極的にご意見を、区、あるいは委員会にお寄せいただければというふうに考えております。

本日はどうもありがとうございます。そしてお疲れさまでした。私ども、今から結果について審議をいたしたいと思いますが、だいぶ悩んでおり、大変になるのではないかと思っています。本日はどうもありがとうございました（拍手）

事務局 本日は、長時間にわたりまして傍聴いただきまして、まことにありがとうございます。過去のNPO活動資金助成の団体の冊子をつくっております。今までどういう団体に助成したかという冊子については、1階の地域調整課コミュニティ係の向かいにパンフレットスタンドがございまして、そこに設置しておりますので、もしそういったものもご覧になるようでしたら、帰りにお持ち帰りいただきたいと思っております。

本日は長時間にわたってどうもありがとうございました。

それでは、NPO活動資金助成公開プレゼンテーションを終了させていただきます。ありがとうございました（拍手）

- - 了 - -